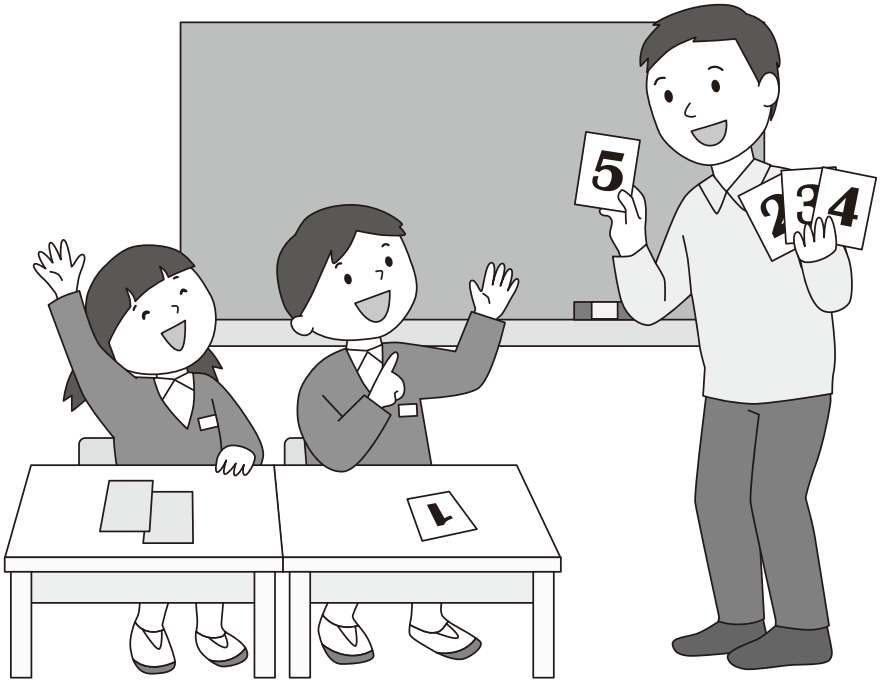
子どもたちの「わかった」「できた」を増やそう！

特別支援教育の視点を生かした授業づくりヒント集



平成31年(2019年) 3月

滋賀県教育委員会

は　じ　め　に

滋賀県教育委員会では、平成28年度より「発達障害のある子どもへの支援強化事業」に取り組んできました。その中で、平成29年度から２年間、文部科学省委託事業「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業」（以下「教科指導法研究」）を活用し、小・中学校の通常の学級における障害の特性に配慮した指導や支援の充実と、発達障害に対する教員の専門性の向上をめざした研究を実施しました。

平成29年に告示された小学校（中学校）学習指導要領では、「児童（生徒）の発達の支援」について、通常の学級にも発達障害を含む障害のある児童（生徒）が在籍している可能性があることを前提に、各教科等の学びの過程において想定される困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することについて述べられています。

教科指導法研究では、通常の学級における特別な支援の必要な児童生徒への指導・支援について、文部科学省における本委託事業連絡協議会での指導助言をもとに、関係者との連絡協議や参考文献から図１のように捉え、検証しました。

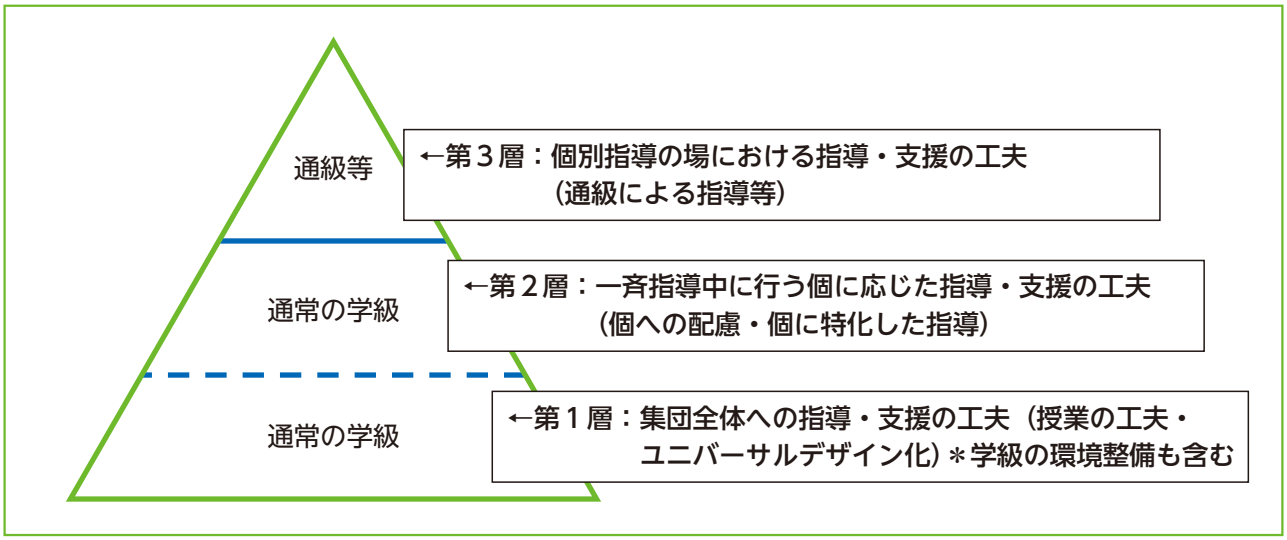


図１　小・中学校　通常の学級における特別な支援の必要な児童生徒への指導・支援の階層性
（田中裕一、2017年を参考に改編、詳細は参考文献に記載）

今回発行するヒント集は、研究モデル地域の通常の学級における教科指導（小・中学校「国語科」・小学校「算数科」）の実践を中心にまとめた研究成果物です。記述の中心は、図１の第１層、第２層における指導・支援の工夫としています。教育上特別な支援を必要とする児童生徒に見られる「困難さ」に対して、「授業における工夫」と一斉指導中に行う「個に応じた手立て」を提示するように努めました。

本事例集を、通常の学級における特別な支援の必要な児童生徒に対しての指導や支援に、少しでも役立てていただければ幸いです。

平成31年（2019年）３月

滋賀県教育委員会

目　　次

○はじめに

○教育上特別な配慮を必要としている子どもたちの理解と授業における
支援ヒント集９項目（「つまずきの整理表」を活用した授業）

○　本ヒント集の活用にあたって …… 1

1　話を聞くことが苦手な子に対して …… 3

2　自分の思いを伝えたり話したりすることが苦手な子に対して …… 9

3　文章を読むことが苦手な子に対して …… 14

4　文章を書くことが苦手な子に対して …… 19

5　算数が苦手な子に対して …… 24

6　自分の考えをまとめることが苦手な子に対して …… 29

7　気が散りやすい子に対して …… 32

8　落ち着きのない子に対して …… 36

9　衝動的な言動が目立つ子に対して …… 42

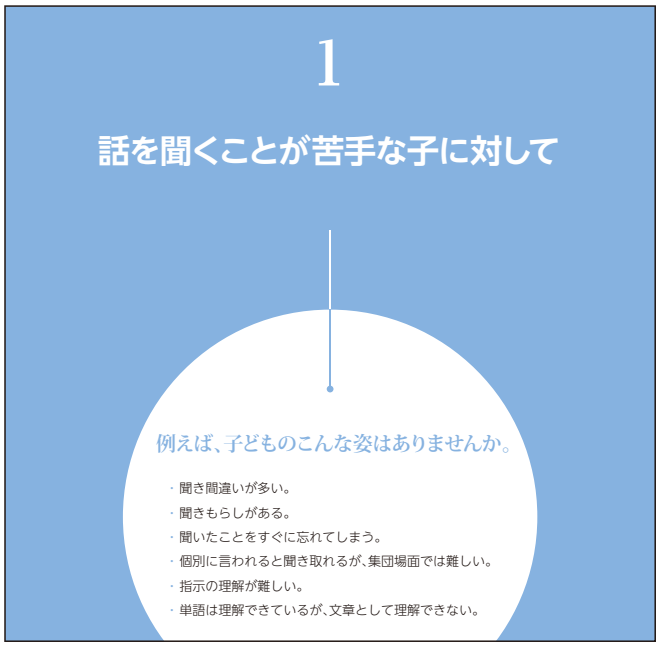
○「つまずきの整理表」（様式）…… 45

○参考文献 …… 47

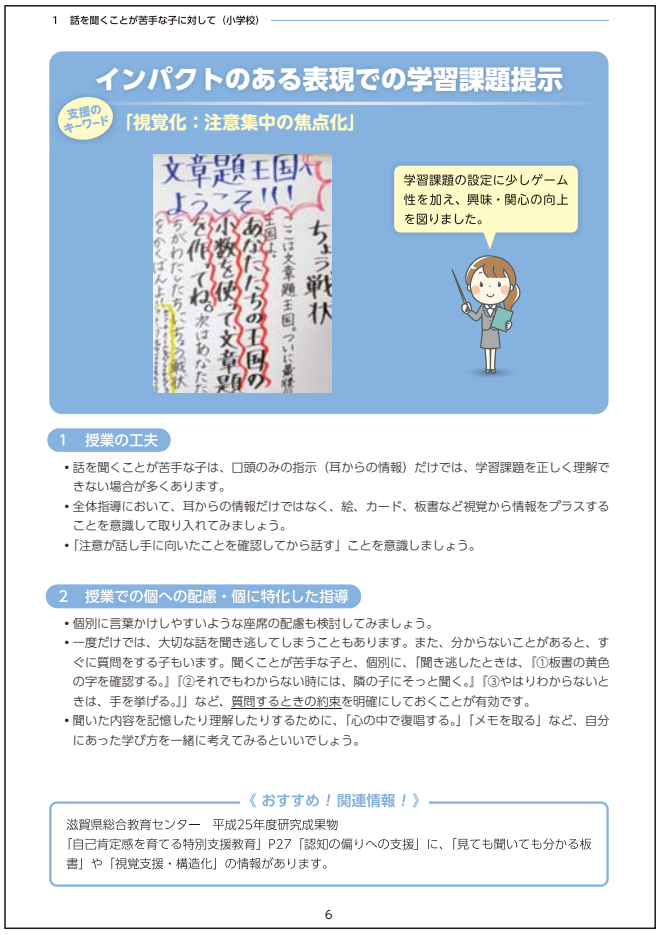
本ヒント集の活用にあたって

～教育上特別な配慮を必要としている子どもたちの理解と授業における支援ヒント集～

「教育上特別な配慮を必要としている子どもたちの特徴」の具体の姿を例に出し、９つの項目にまとめました。



1　話を聞くことが苦手な子に対して
2　自分の思いを伝えたり話したりすることが苦手な子に対して
3　文章を読むことが苦手な子に対して
4　文章を書くことが苦手な子に対して
5　算数が苦手な子に対して
6　自分の考えをまとめることが苦手な子に対して
7　気が散りやすい子に対して
8　落ち着きのない子に対して
9　衝動的な言動が目立つ子に対して



次に、対応のヒントとなる写真等の資料を、「支援のキーワード」とともに示した後、通常の学級における指導・支援を

1　「授業の工夫」

2　「授業での個への配慮・個に特化した指導」

に整理しました。

また、指導の参考となりそうな情報は、「おすすめ！関連情報！」として掲載しました。

作成にあたっては、「つまずきの整理表」を活用しているものもあります。

～「つまずきの整理表」を活用した授業～

本研究では、「つまずきの整理表」を作成し、研究モデル地域において活用しました。これは、前述の「小・中学校　通常の学級における特別な支援の必要な児童生徒への指導・支援の階層性」を踏まえ、「つまずきが心配される児童生徒の様子」を想定し、指導・支援を整理したものです。ヒント集との関連は、該当ページを明記しています。

つまずきの整理表について

学年 教科 小学３年　国語科　**単元名** はたらく犬について調べよう「もうどう犬の訓練」（説明文）（東京書籍）

実際の教科書の単元名を記載しました。

1　話を聞くことが苦手な子に対して（P４）
3　文章を読むことが
7　気が散りやすい子に対して（P

ヒント集との関連ページを明記しました。

①目標（内容）
・大事な言葉や文を見つけながら文章を読み、書かれてい

① 学習における目標（内容）を記述しました。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
・集団の中で、言葉の指示や注意の理解が難しい。
・要約で使うキーワードを見つけることが
・ことば・文章の意味理解が難しい。
・単語や文節の区切りを誤って読んでしま
・板書を正しく写すことが難しい。

② 学習を進めるにあたり、つまずきが心配される児童生徒の様子を記述しました。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−1　授業の工夫（※UD化）
・単元の見通しを持たせる。
・授業のパターン化で見通しを持たせる。
・ゴールがイメージできる課題提示。
・実際にリーフレットを作成しイメージ
・視覚支
＊「今、何
＊付箋や
・注目す るため したも

③−1 一斉指導における授業の工夫（授業のユニバーサルデザイン化：UD化）を記述しました。

＋

③−2　個への配慮（集団内）
・教師が話す前に、対象児童への注意喚起を行う。
・机間指導による個別の関わり。
・板書を写す量を軽減。
・構成を考えるために付箋や短冊を活用。
・ペア学習の実施。
・要約の ードを
・学習に 教師が ループ

③−2 一斉指導中に行う個への配慮を記述しました。

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）
・読みの支援として、
＊文節ごとにスラッシュを入れる。
＊読めない漢字には振り仮名を振る。
＊１行の幅で窓を開けた「スリット」を用意し、他の行を隠して読む行のみが見えるようにして読み進める
＊指や定規を 所を意識し にする。
・書きの支援
＊板書を正し シートを用

③−3 集団内で行う個に特化した指導を検討し、記述しました。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
・導入で、教師が作成したリーフレットのモデルを提示することで、ゴールのイメージをもつことができた。
・子どもの発言を活用した学習計画を作成することで、学習の見通しを持つことができた。教室掲示と同様の学習計画を子どもに渡し、毎回学習の始めに学習内容を確認した。このことで、学習のめあてが明確になった。
・１時間の授業の流れを明示し、「今は何をするときなのか」を示したことで、１時間の見通しを持って学習に臨むことができた。
・ペア学 安心して学習に取り
・授業を 学習の流れに慣れ、 。
・付箋を 使用することで間違ってもよいという安心感があり、楽しみながら学習に取り組むことができた。

④ 授業後、①目標に対して指導を振り返りました。

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
・教師が話す前に、支援の必要な子に声をかけ、注意喚起することで聞く時の集中が高まった。
・要約のヒントカードを必要に応じて活用することで、書き方のわからない子どももとまどうことなく取り組むことが出来た。
・座席の配置に配慮したことは、ペア活動で、互いに交流することに有効だった。
・文節ごとにスラッシュを入れたり、指や定規を利用したり 読みにくさ
・「読み 待って 読む こと で、 の向上 につ
・お手 組みやすさにつながった。

⑤ 授業後、②でつまずきが心配されていた児童生徒の様子について、③１・２・３の段階を踏まえた指導を振り返りました。

③−３　個に特化した指導（特別な場）
・通級指導教室の活用（視覚・聴覚認知の向上

③−3 通級指導教室や別室における指導等、特別な場における「個に特化した指導」との関連を示しました。

※ユニバーサルデザイン化（以下UDと略します）

1

話を聞くことが苦手な子に対して

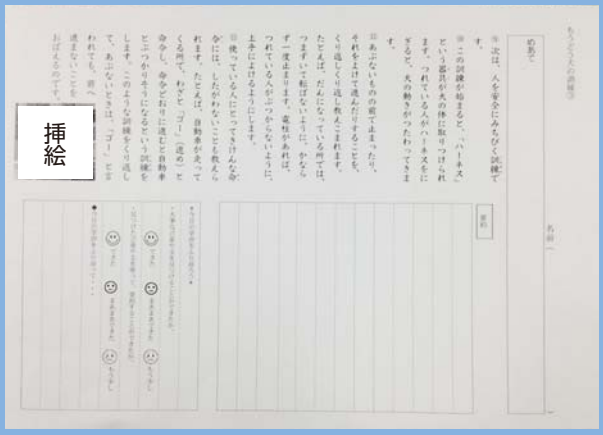
例えば、子どものこんな姿はありませんか。

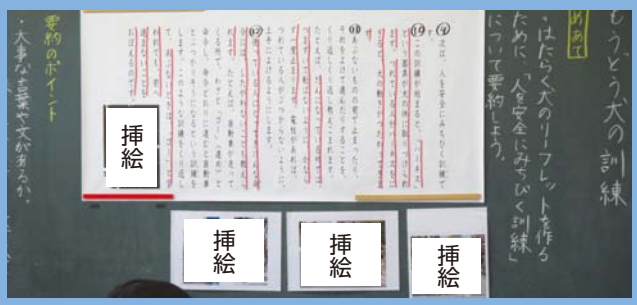
- 聞き間違いが多い。
- 聞きもらしがある。
- 聞いたことをすぐに忘れてしまう。
- 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。
- 指示の理解が難しい。
- 単語は理解できているが、文章として理解できない。

安心して参加できる「わかりやすい授業」の工夫

支援のキーワード

「パターン化と視覚化で意欲の継続と安心感」





挿絵（写真）を活用することで、文章の理解を助けます。

3年　国語科「もうどう犬の訓練」の授業より

1　授業の工夫

- 聞くことが苦手な子には、聞く姿勢を作っていても内容の理解が難しい、または周囲の様子を気にして聞き逃してしまうなどの姿があります。
- 「①読む」「②めあてをノートに書く」「③自分で考える」「④話し合う」「⑤まとめる」など、授業の大まかな流れを作り、「学習の見通し」を持たせることで、安心して学習活動に向かうことができます。
- 既習事項や学習方法を、注目するようにわかりやすく示すと、聞くことが苦手な子だけではなく他の子どもが思考する際の手掛かりになります。
- 絵や写真、文字カードを活用し、視覚的に情報を補いましょう。板書（全体説明）とワークシート（個別学習）を結びつけることで、内容がより理解しやすくなります。
- 指示は、具体的な言葉で、短くはっきりとポイントを伝えましょう。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 全体指示を聞きもらした場合には、個別にそばで言葉かけをし、注意喚起や理解を促します。
- 話の内容やポイントが理解できているかを個別に確認することで、安心して学習に取り組むことができます。
- 必要に応じて、活動することや説明の内容をまとめたメモを渡すことも有効です。
- 理解の程度に合わせたヒントカードを用意し、子ども自身が選択する場面を設定することで、学習への参加意欲が高まります。

P5「つまずきの整理表」と関連 ▶

学年 教科 **小学３年　国語科**　**単元名** **はたらく犬について調べよう「もうどう犬の訓練」（説明文）（東京書籍）**

1　話を聞くことが苦手な子に対して（P４）
3　文章を読むことが苦手な子に対して（P16）
7　気が散りやすい子に対して（P33）

①目標（内容）
- 大事な言葉や文を見つけながら文章を読み、書かれていることを要約することができる。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 集団の中で、言葉の指示や注意の理解が難しい。
- 要約で使うキーワードを見つけることが難しい。
- ことば・文章の意味理解が難しい。
- 単語や文節の区切りを誤って読んでしまう。
- 板書を正しく写すことが難しい。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−１　授業の工夫（UD化）
- 単元の見通しを持たせる。
- 授業のパターン化で見通しを持たせる。
- ゴールがイメージできる課題提示。
- 実際にリーフレットを作成しイメージしやすくする。
- **視覚支援**

＊「今、何をする時なのか。」を明示。
＊付箋や短冊の活用。
- 注目する箇所をわかりやすくするために、ワークシートを拡大したものを提示する。

＋

③−２　個への配慮（集団内）
- 教師が話す前に、対象児童への注意喚起を行う。
- 机間指導による個別の関わり。
- 板書を写す量を軽減。
- 構成を考えるために付箋や短冊を活用。
- ペア学習の実施。
- 要約の手掛かりとなるヒントカードを用意。
- 学習に取り組みやすくなるよう、教師が意図的に座席の配置やグループ編成を行う。

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）
- **読みの支援として、**

＊文節ごとにスラッシュを入れる。
＊読めない漢字には振り仮名を振る。
＊１行の幅で窓を開けた「スリット」を用意し、他の行を隠して読む行のみが見えるようにして読み進める。
＊指や定規を使って、読んでいる所を意識し、正しく読めるようにする。
- **書きの支援として**

＊板書を正しく写すためのお手本シートを用意する。

||

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- 導入で、教師が作成したリーフレットのモデルを提示することで、ゴールのイメージをもつことができた。
- 子どもの発言を活用した学習計画を作成することで、学習の見通しを持つことができた。教室掲示と同様の学習計画を子どもに渡し、毎回学習の始めに学習内容を確認した。このことで、学習のめあてが明確になった。
- １時間の授業の流れを明示し、「今は何をするときなのか」を示したことで、１時間の見通しを持って学習に臨むことができた。
- ペア学習を取り入れることで、子どもが安心して学習に取り組むことができた。
- 授業をパターン化することで、少しずつ学習の流れに慣れ、スムーズに活動できるようになった。
- 付箋を使用することで、間違ってもはがせるという安心感があり、楽しみながら学習に取り組むことができた。

||

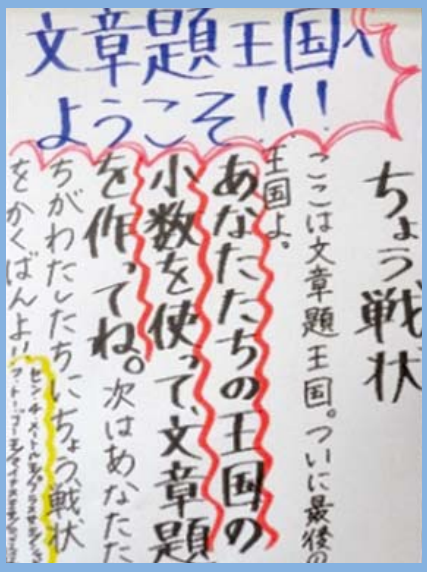
⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- 教師が話す前に、支援の必要な子に声をかけ、注意喚起することで聞く時の集中が高まった。
- 要約のヒントカードを必要に応じて活用することで、書き方のわからない子どももとまどうことなく取り組むことが出来た。
- 座席の配置に配慮したことは、ペア活動で、互いに交流することに有効だった。
- 文節ごとにスラッシュを入れたり、指や定規を利用したりすることで、文章を目で追いやすくなり、読みにくさの軽減につながった。
- 「読みは指で押さえながら読むか」、「教科書を持って読むか」など、自分に合っている方法を選択することで、読んでいる場所がわかるようになり、読みの向上につながった。
- お手本シートを活用することで、視写への取り組みやすさにつながった。

③−３　個に特化した指導（特別な場）
- 通級指導教室の活用（視覚・聴覚認知の向上、集中の持続、音読練習、漢字の習得）

インパクトのある表現での学習課題提示

支援のキーワード

「視覚化：注意集中の焦点化」



学習課題の設定に少しゲーム性を加え、興味・関心の向上を図りました。

1　授業の工夫

- 話を聞くことが苦手な子は、口頭のみの指示（耳からの情報）だけでは、学習課題を正しく理解できない場合が多くあります。
- 全体指導において、耳からの情報だけではなく、絵、カード、板書など視覚から情報をプラスすることを意識して取り入れてみましょう。
- 「注意が話し手に向いたことを確認してから話す」ことを意識しましょう。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 個別に言葉かけしやすいような座席の配慮も検討してみましょう。
- 一度だけでは、大切な話を聞き逃してしまうこともあります。また、分からないことがあると、すぐに質問をする子もいます。聞くことが苦手な子と、個別に、「聞き逃したときは、『①板書の黄色の字を確認する。』『②それでもわからない時には、隣の子にそっと聞く。』『③やはりわからないときは、手を挙げる。』」など、質問するときの約束を明確にしておくことが有効です。
- 聞いた内容を記憶したり理解したりするために、「心の中で復唱する。」「メモを取る」など、自分にあった学び方を一緒に考えてみるといいでしょう。

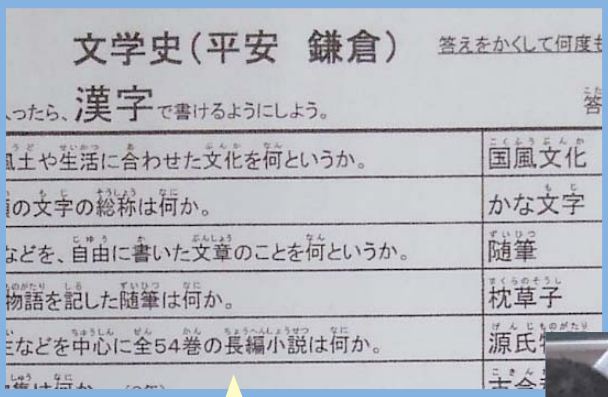
《 おすすめ！関連情報！ 》

滋賀県総合教育センター　平成25年度研究成果物
「自己肯定感を育てる特別支援教育」P27「認知の偏りへの支援」に、「見ても聞いても分かる板書」や「視覚支援・構造化」の情報があります。

「見える化」の視覚支援と音声トレーニング

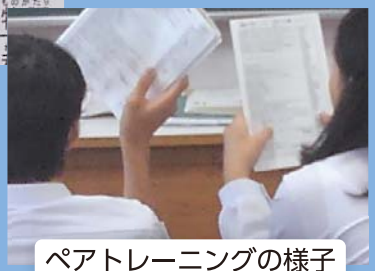
支援のキーワード

「『話すことを通して聞く』多感覚で学ぶ能動的なトレーニングを」



中学２年生　国語科の実践です。マンツーマンのクイズ形式で重要事項を音声化して、その単元の時間に毎時間繰り返します。

全体トレーニングの様子



ペアトレーニングの様子

視覚支援も大切ですが、併せて音声化トレーニングも大切です。写真は全体とペアでの音声トレーニングの様子です。

1　授業の工夫

- １時間の授業の流れを一定にし、テンポがよく見通しが持てるように組み立てます。その中でペアトークやグループトークの活動場面を取り入れ、「音声トレーニング」として声に出させてペアで学び合わせます。
- プロジェクター等のＩＣＴ機器を活用し、視覚的な支援をする際に指示や発問内容を「見える化」し、また、視覚的イメージを促します。
- 画面に提示しているものと同じスタイルのワークシートを活用します。
- 教師自身が、聞き取りやすい音声、表情、身振り、動作などを工夫し、豊かな表現で話すように心がけます。
- 話すときには生徒の手を止めさせ、必ず話が聞こえる静かな状態にしてから話します。指示を出した後は、全員が指示内容を理解できたかどうかの確認も忘れずに行います。

指示や発問内容を「見える化」します。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- ペアでの、耳からの情報（質問）をもとに答えるクイズ形式の音声トレーニングは、話し手の言葉が自分一人に向けられていることから、落ち着いて傾聴できます。また、自分の発した言葉を自分も聞いて学べるという効果が予想されます。
- 聞き漏らしたことを確認しやすい座席の配置に配慮し、注意が向いているかの確認ときめ細かな言葉かけに留意します。

Ｐ８「つまずきの整理表」と関連 ▶

学年 教科 **中学２年　国語科**　**単元名** **文法のまど１　用言の活用**（三省堂）

１　話を聞くことが苦手な子に対して（P７）

①目標（内容）
- 用言の活用についての理解を深める。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 聞きもらしや聞き間違いがある。個別に言われると聞き取ることができるが、集団場面では難しいことがある。（補聴器を装用している。）
- 気が散りやすく、集中力が途切れることが多い。
- 学習の理解に時間がかかることがあり、また、指示を理解するのが難しいときがある。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−１　授業の工夫（UD化）
- １時間の授業の流れを一定にし、テンポがよく見通しが持てるようにする。
- ペアでの音声トレーニングを取り入れ、知識の習得を図る。
- プロジェクターを活用し、視覚的な支援を行う。
- 学習内容と連動したワークシートを活用する。
- ペア学習を利用し、繰り返し既習事項の音声化を行う。
- 指示や発問内容を見える形にする等、視覚的イメージを促す表現を使う。
- ペアトークやグループトークを取り入れる。

＋

③−２　個への配慮（集団内）
- 落ち着いて傾聴できるように、ペアで取り組む。耳からの情報（質問）をもとに答えるクイズ形式の音声トレーニングを取り入れる。言い回しで覚えられるように工夫する。
- 静かな状態にしてから話す。（静かで聞きやすい環境作り）
- 丁寧で聞き取りやすく、表現が豊か(音声、表情、身振り、動作等)な話し方を心がける。
- 生徒の手を止めさせてから話をする。
- 指示を出した後、全員が理解できたかどううかを確認して、次の指示を出す。
- 授業の導入時の短い時間を利用し、毎日繰り返し学習を取り入れる。

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）
- 聞き漏らしたことを確認しやすいように、座席を前面に配置する。
- 大切なポイントを話す前後には、注意がこちらに向いているかどうかの確認のため、視線を合わすように留意し、必要に応じて言葉かけを行う。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- １時間の授業の流れを一定にし提示をすることで、授業の流れの見通しが持てるようになった。
- プロジェクターで視覚的に提示することで、授業への集中を図ることができた。また、それに合わせたワークシートの利用により、学習のポイントがより明確になった。
- ペアでの音声トレーニングはその成果が分かりやすく、意欲的に取り組む姿勢が見られた。そのことにより、学習内容の定着化を図ることができた。

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- 机間指導の際、「〜するの？」という確認の声が出た。授業のテンポに遅れることなく、課題に取り組むことができた。
- ペアでの「音声トレーニング」は、話し手の言葉が自分一人に向けられていることから、しっかりと聞き取っていた。また、本人の進捗度に合わせて取り組むことから、前向きに意欲を持って取り組むことができた。

③−３　個に特化した指導（特別な場）
- 放課後等や長期休暇に、教科担任からの補充教室や個別指導。

2

自分の思いを伝えたり話したりすることが苦手な子に対して

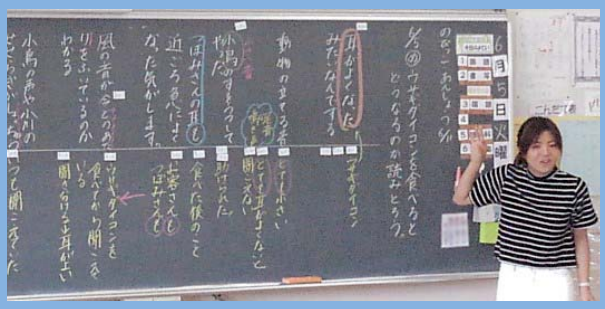
例えば、子どものこんな姿はありませんか。

- 筋道を立てて話しにくい。思いつくままに話してしまう。
- 内容豊かに話すことが難しい。
- 言葉に詰まってしまう。
- 適切な早さで話すことが難しい。
- 要点が伝わりにくい。

コミュニケーションの基本は聞く力

支援のキーワード

「安心して話し合える学級集団づくりが土台！」



反応しながら聞こう

指示された時	「はい！」
なっとくした時	「あぁ～。」うなずく
おどろいた時	「おぉ～。」
すごいと思った時	声＋拍手！

つなげて発表しよう

意見	～と思います。理由は、～だからです。
さんせい	○○さんの意見にさんせいです。理由は、～だからです。
にている	○○さんとにていて、～です。
付け足す	○○さんに付け足して、～です。
ちがう	○○さんとちがって、～です。
しつもん	なぜ～なのですか。その理由を言ってください。
意見	△△と考えていましたが、○○さんの意見を聞いて、～という考えになりました。
反対	○○さんの意見に反対です。理由は、～だからです。
かくにん	～の所が分かりにくかったので、もう一度おねがいします。

スモールステップで意見が言えるように発問を準備したうえでマグネットネームを使い、クラス全員から意見が引き出せるように工夫します。その際に、「発表の仕方」だけでなく、友だちの発表の「聞き方についての約束事」を決めておくことで、安心して自分の思いを伝えやすくなり、互いの意見を尊重し合う雰囲気が作り出されます。

1　授業の工夫

- 発表の仕方や聞き方の約束について、いつでも見て確認できるように教室掲示をします。
- ペアや小集団で、児童同士が教え合ったり助け合ったりする場面を設け、話すことの活動場面を、意図的に取り入れます。
- 考えるための一助とするために、これまでに学習した単元につながる内容などを分かりやすくまとめ、教室に掲示します。
- 発表者へ向けて、子どもたちからプラスの声かけや拍手が起こるような誰もが発言や質問のしやすい温かな雰囲気の学級集団づくりに、国語科を核として日頃から取り組みます。
- 発表の機会を作るために、個々の発言だけでなく、グループやペアで相談した結果を発表させます。自分一人の考えではないので、助力を得やすく、安心もできます。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 自分の思いを伝えやすい安心のできる座席の配置（隣席の児童･全体の位置）を考えます。
- 発言する際の心理的ハードルを下げるために、意見を整理して書く時間を十分に取り、その際の机間指導では、手助けの言葉かけなど、個に応じた具体的な支援をします。
- 言葉足らずな発表内容へは、適切な補足を行い、発表したことへのプラスの言葉かけをします。

P11「つまずきの整理表」と関連 ▶

学年 教科 **小学３年　国語科**　**単元名** **物語のしかけをさがそう「ゆうすげ村の小さな旅館」（物語）（東京書籍）**

2　自分の思いを伝えたり話したりすることが苦手な子に対して（P10）

①目標（内容）
- 起きた出来事を確かめ、人物について想像しながら読むことができる。
- 物語のしかけにつながる言葉に気をつけて読むことができる。
- 自分が感じたことや考えたことについて、理由を挙げて伝えることができる。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 学習についていくのに精一杯の感があり、落ち着いて自分の考えを整理する時間的余裕があまりない。
- 自分が感じたことや考えたことに自信がもてないので、声がかぼそくなったり詰まってしまうことが多い。
- 人前で話すのが苦手で、特定の友だちとしかしゃべらない。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−1　授業の工夫（UD化）
- 場面や人物の気持ちを時系列でみるワークシートを活用。
- 「ま」（まとめ）、「ふ」（ふりかえり）の時間を位置づけた学習の流れに沿った授業の展開。
- 発表の仕方や聞き方の手順を示し教室掲示。
- ペアトークやグループトークなど、児童生徒同士で教え合ったり、助け合ったりする活動場面を取り入れる。
- 思考の助けとなるように既習の学習内容のまとめやポイントを掲示。
- 誰もが発言・質問しやすい学級集団作り。

＋

③−2　個への配慮（集団内）
- 座席の配置（隣席の児童・教室全体の位置）に配慮する。
- 毎時間の「ふ」（ふりかえり）を作文で書く設定とそのための例を示す。
- 机間指導での適切な言葉かけを行う。
- 意図的指名による発表の機会の設定を行う。
- 発表したことへプラスの評価を行う。
- 全員で答えさせたり、グループや個人で答えさせたりする等指名の仕方を工夫する。
- 希望する児童には「ヒントカード」を渡し、参考にさせる。

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）
- 自分の思いを伝えやすい安心できる座席の配置（隣席の児童・全体の位置）にする。
- 発言の心理的ハードルを下げるため、自分の意見を整理して書く時間を十分に取る。その際机間指導で、手助けの言葉かけなど、具体的な支援を行う。
- グループやペアで相談した結果を指名し、自信をもって発表できるようにする。
- 言葉足らずな発表内容へは適切な補足を行い、発表したことへのプラスの言葉かけを行う。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- 発表者への聞き方や態度を示し、それを掲示することで、発言・質問しやすい授業の雰囲気をつくることができ、活発な意見交流につながった。
- ペアやグループで話し合う場面を計画的に取り入れたことで、安心して自分の考えを述べることができた。
- 既習の学習内容のポイントを掲示したことで、学習の流れが分かり、考えをまとめる手助けとなった。
- １時間の授業ごとに、めあてに応じた振り返りを文を書かせることは、自分の考えを整理をすることに役だった。

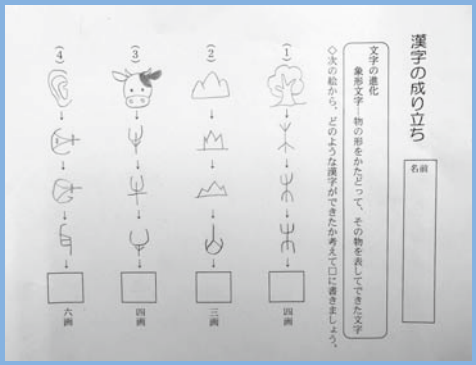
⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- 座席の配置を配慮したことで、対象児童はペアやグループでの意見交流ができた。
- ペアやグループで相談した結果を、対象児童が発表できた。それは一人の意見でないことから安心感があったことが予想できる。また発表への拍手をもらい笑みを浮かべたことから、発表に対し自信が生まれたのではと考えられる。

③−３　個に特化した指導（特別な場）
- 通級指導教室における指導。
- 休み時間や放課後を活用した、学級担任からの個別指導。

参加しやすい授業展開の工夫

支援のキーワード

「学習課題へのアプローチの仕方の変換」



「漢字の成り立ち」の学習より
プリントの上半分

授業展開

1　演習課題

「象形文字の成り立ちから考えて、次の絵からあてはまる漢字を答えましょう」

＊意欲を高める言葉を添える。

「最後の問題はとても難しいです。調べても良いので、答えられたらすごいな。」

2　自力解決

3　ペア等での「学び合い」

4　演習課題の解決と学習内容の整理

演習課題を振り返り、具体的に例を示しながら漢字の成り立ちについて学ぶ

『易（イ）』ージー参加
「取り組み『易（やす）』い」ってことが大切

漢字の成り立ちや文法、数学の図形課題に有効かな…

1　授業の工夫

- 自分の思いがうまく伝えられない子は、自分の考えに自信が持てない場合があります。また、授業のスタートでつまずくと、学習への参加意欲も薄れることが多いです。
- 導入において、問題へのわくわく感が持てるように工夫することが大切です。例えば、「漢字の成り立ち」の学習では、授業の終末に行う演習課題を導入場面に実施することで、クイズ感覚で課題に取り組め、学習への意欲的な参加が期待できます。
- 自力解決した後、ペア等での「学び合い」をすることで、友だちの言い方を手本にして伝え方を学ぶ機会になるとともに、伝えることへのハードルが下がり、思いを伝えやすくなります。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 課題への取組方法を十分に理解していないこともあります。個別の語彙の量や理解力を把握しておき、必要に応じて個別に確認や支援をすることが大切です。
- 学習参加レベルを想定し、学び合いに自力で参加できている場面で個別に評価をすると、子どもの自信につながります。

P13「つまずきの整理表」と関連 ▶

《 おすすめ！関連情報！ 》

発達障害支援アドバイザーの助言から
自分の思いが伝えにくい子どもに合わせて、環境や関係を変更･調整する等の支援【例えば、手立て、手がかり、手助け、手引きなど】が大切です。
「参加しやすく」「理解しやすく」「習得しやすく」「活用しやすく」「探究しやすく」を意識して授業展開を考えると良いでしょう。

学年 教科 **中学１年　国語科**　**単元名** **漢字の成り立ち**（三省堂）

2　自分の思いを伝えたり話したりすることが苦手な子に対して（P12）

①目標（内容）
- 漢字の成り立ちについて理解することができる。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 一斉指導での課題内容の理解。
- 漢字の意味理解。
- これまでの「学習のわかりにくさ」に起因する、意欲集中力の低下や自信のなさ。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−1　授業の工夫（UD化）
- 演習問題を授業の最初に取り組む授業展開。
- 挑戦しようとする気持ちを高める言葉かけ。
- 互いの意見を交流できる「学び合い」の時間の設定。

＋

③−2　個への配慮（集団内）
- 語彙の量や理解力を把握し、必要に応じた個別支援の実施。
- 学習参加レベルを想定し、学び合いに参加できている場面で個別に評価。
- 「学び合い」による友だちからの支援。

＋

③−3　個に特化した指導（集団内）
- 理解の支援として
- わからない漢字には、ヒントカードを提示する。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- 授業の終末に実施する演習問題を最初に行うことで、「間違っても大丈夫」という安心感や問題への期待感を持って、意欲的に取り組むことができた。
- 「課題の最終問題はとても難しい。調べても良いから挑戦してみて」と言葉をかけることで、積極的に課題に取り組み、問題を解こうと相談し合う姿があった。
- 授業の途中に理解ができなくなって意欲が低下する子も、終末問題から始まる授業展開に、最後まで意欲的に取り組むことができた。
- 「学び合い」はペアを基本とした小集団での確認であるため、伝えることへのハードルが下がり、思いが伝えやすく、学びの成就感につながった。

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- 「学び合い」で、友だちの発言を手本にでき、思い切って自分の意見を伝えることができた。
- 「学び合い」に自力で参加できている場面を評価することで、学習への意欲向上につながった。
- 個別の支援により、課題が理解でき学習に向かうことができた。わからない漢字はヒントカードで理解を促すことで、最後まであきらめずに取り組むことができた。

③−3　個に特化した指導（特別な場）

3

文章を読むことが苦手な子に対して

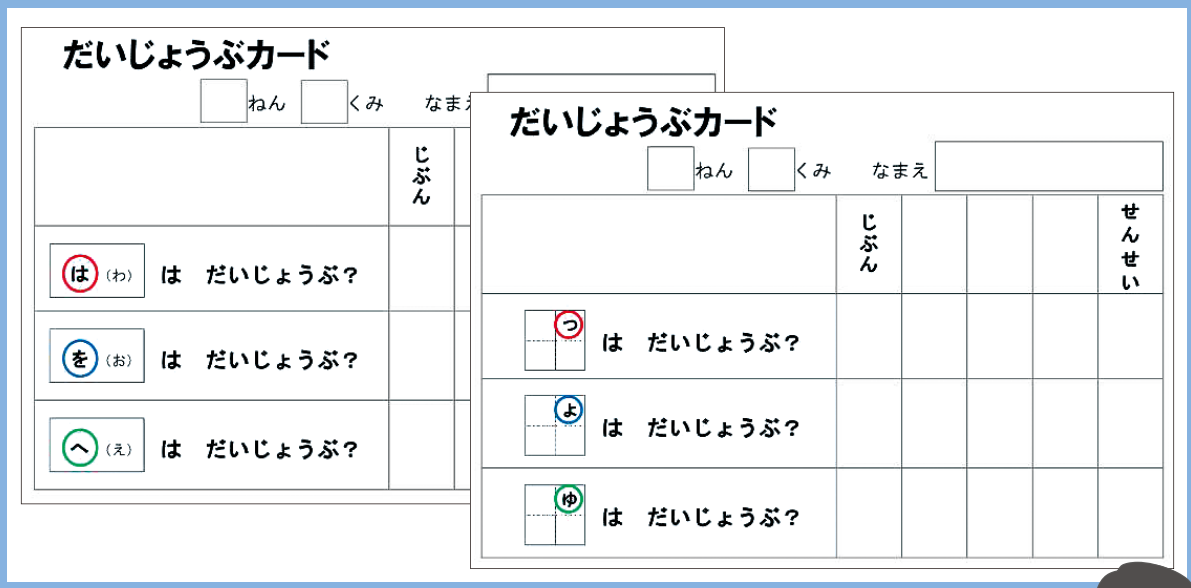
例えば、子どものこんな姿はありませんか。

- 文中の語句を抜かしたり、行をとばしたりしてしまう。
- 文末などを違う言葉に置き換えて読んでしまう。
  （例えば、「～でした。」→「～でしょう。」）
- 文章の内容を正しく読みとることが難しい。

主体的に読み返し、助詞などを正しく使えるように

支援のキーワード

自分のめあてを意識して読み返す「相互評価カード」



- 教科書を音読する際や、自分や友だちが書いた文章をペア等で読み合う場を設定した際に、「だいじょうぶカード」を活用します。
- 「じぶん」と「せんせい」の間の欄には、相互評価を行うペアやグループの友だちの名前を書き入れます。
- 自分が間違いやすい助詞などを意識して、音読したり書いた文章を友だちと読み合ったりすることにより、正しい使い方の定着を図ります。

1　授業の工夫

- 低学年の国語科学習で、多くの子どもがつまずきやすいのが、長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「を」、「へ」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「　」）の使い方です。
- これらの内容を定着させるためには、一人ひとりのつまずきに応じた指導を工夫し、継続して正しい使い方を指導することが効果的です。
- 教科書本文等の助詞「は」、「を」、「へ」などを、色鉛筆で「は」、「を」、「へ」と印をつけさせ、それに対応した「だいじょうぶカード」を活用します。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 文字を読むことが苦手な子どもは、人前で読むことを嫌がることが多く、失敗しないために事前に練習をすることが必要です。
- 「だいじょうぶカード」を使ったペアやグループで読み合う学習活動を設け、その時間を利用しながら、つまずきやすい子どもを個別に指導することが効果的です。
- 個々の子どもの助詞などの読み書きに関するつまずきの実態を把握し、その子の間違いやすい項目を抽出し、個に特化した「だいじょうぶカード」を作成し、必要に応じて継続して活用することで定着を図ることもできます。

ことばのまとまりがわかるように

支援のキーワード

「補助線などを使って、課題の難易度を下げる」

今日は、／朝から／雨が／降っていました。／けれども／夕方には／やんで、／外に出ると、／きれいな／夕焼けが／見えました。

①最初は先生と一緒にスラッシュを入れて読む。

②自分で指でなぞりながら読む。

文節にスラッシュを入れると、ことばのまとまりがわかるようになってきます。
指でなぞりながら読むことで、集中力が高まり文章が理解しやすくなります。

1　授業の工夫

- 読むことが苦手な子の中には、日常会話では特に問題を感じませんが、音読になると文字を抜かして読んだり1行とばしで読んだりする子がいます。また、別の言葉に読み誤ったり、文末を勝手に変えて読んでしまったりすることもあります。以下の工夫をすると良いでしょう。
  - 読み間違いが多くなりそうなところは、そのことばを囲う等、印をつける、全体で音読して読み方に慣れる等の工夫をしましょう。
  - 教師の範読は、分かち書きを意識して行うと良いでしょう。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 1行の幅で窓を開けた「スリット」を用意します。他の行を隠し、読む行のみが見えるようにして読み進めると、「読みの向上」につながりました。よく使う本の幅に合わせて、何種類か用意しておくと便利です。
- 指や下敷き、定規等を当てて少しずつずらして読む、文節ごとにスラッシュを入れるなどの支援も有効です。
- 全体で音読するときは、音読する部分を事前に知らせておくと安心して発表でき、苦手意識を軽減できます。

＊色画用紙で作成したスリット

P5「つまずきの整理表」と関連 ▶

《おすすめ！関連情報！》

「心理的な抵抗があることも」
読むことに苦手意識のある子の中には、笑われた経験やうまくいかないという自覚などが原因で、人前で読むのを嫌がることがあります。こういった心理的な抵抗があるときは、無理に読ませるのは控え、抵抗の少ない活動から、徐々に慣れるように導くと良いでしょう。

漢字を読むことが好きになる学習活動

支援のキーワード

漢字に楽しく慣れ親しむ工夫

友だちと相談して熟語を考えたり、他のグループと作った熟語を共有したりする活動を多く取り入れることで、漢字を身近に感じ、読むことの苦手さが軽減します。

1年：漢字の学習の導入
漢字の成り立ちクイズ
「関係ある３枚のカードを揃えよう」

2年：漢字の学習
既習漢字で熟語を作ろう
「たくさんカードを使って熟語を作ろう」

1　授業の工夫

- 新出漢字を学習するときは、まず読むことから始めます。漢字ドリルの漢字に振り仮名を振り、読めるようになったら消していきます。振り仮名を消すことが「読めた」という自信につながります。
- 少し練習したら友だちとペアで読み合い、読めたらサインをしていくと、視覚情報からも意欲が向上します。
- 読めるようになったら、書き方を学びます。読む力の向上から、書く学習への抵抗が軽減するでしょう。
- 復習の時には、作成した既習漢字のカードでカルタや四字熟語を作る等の活動をします。楽しみながら読む力が身に付きます。
- 授業の始めやスキルアップタイム（5校時前の10分間：全校一斉の取組）等に、漢字の読みや「本読み漢字」に取り組み、楽しみながら読む力の定着を図ります。

「本読み漢字」
志水廣方式「本読み計算」を参考に作成しました。表は漢字のみ、裏は漢字に振り仮名を振ったプリントを使って、読む役と答えを確認する役に分かれてペアで読み合います。一人2分間で、本を読むように縦から横から上から下からと順に読めるところまで読み進めます。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 読み先行の学習（漢字の読みから学習する方法）をすることで、苦手意識が軽減し、自信を持って漢字の学習に取り組めます。
- ゲーム的な要素を取り入れて短時間の取組を続けることで、学習に対する意欲が持続します。
- 意欲的に取り組んでいる様子を認め、意欲を高めます。

P18「つまずきの整理表」と関連 ▶

学年 教科 **小学１年　国語科**　**単元名** **かんじのはなし**（東京書籍）

３　文章を読むことが苦手な子に対して（P17）

①目標（内容）
- 漢字の成り立ちに興味を持ち、漢字の読み方や書き方を知って、正しく使うことができる。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 一斉指導での課題内容の理解と学習課題への取組の持続
- 漢字の成り立ちの理解
- 漢字の読み方や書き方の理解

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−１　授業の工夫（UD化）
- 漢字やひらがな、カタカナの成り立ちをお話で導入
- 「象形文字」「漢字」カードの組み合わせクイズの取組
- 漢字を何度も読んで読めるようになってから書く練習をする。（読み先行漢字学習の取組）
- 「本読み漢字」の取組
- 電子黒板、プレゼンテーションソフト等の活用

＋

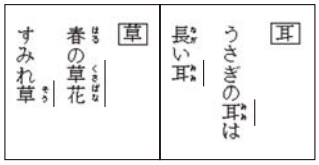
③−２　個への配慮（集団内）
- 机間指導による個別の支援
- グループやペアの配慮
- グループ内での学び合い

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）

読みの支援
- 読めない漢字には振り仮名を振る。
  読めるようになったら、振り仮名を消す。

書きの支援
- 漢字を正しく書くためのお手本シートを活用する。



④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- 漢字、ひらがな、カタカナの成り立ちをお話にすることで、絵本の読み聞かせのように興味を持って聞くことができた。
- 「象形文字」と「漢字」のカードを組み合わせるクイズをすることで、楽しみながら自然に漢字の字形の意味を理解することができた。
- 漢字の読みを確実にしてから「書く」ことで、「書く」ことへの抵抗を軽減することができた。
- 授業の始めやスキルアップタイム（５校時前の10分間、全校一斉の取組）などに「本読み漢字」に取り組むことで読む力が付き、意欲的な取組につながった。

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- 教師の意図的なグループやペアの設定により、子ども同士で協力し合えると共に、必要に応じた適切な支援ができ、意欲的に学習に臨むことができた。
- 漢字の習得が苦手な児童に焦点を当てた支援をすることで、他の児童にとっても学びやすい環境設定ができた。
- 読めない漢字に振り仮名を振ることで、自信を持って学習に取り組めた。

③−３　個に特化した指導（特別な場）
- 家庭学習においても、「読みの支援」、「書きの支援」を、学校での個に合った同様の方法で実施

4

文章を書くことが苦手な子に対して

例えば、子どものこんな姿はありませんか。

- 視写ができない。
- 読みにくい字を書く。
- マス目からはみ出す。
- 鏡文字を書く。
- 特殊音節（拗音、撥音など）の表記を間違う。
- 独特の筆順で書く。
- 間違えた字を書く。（当て字など）

読み書きの力を支えるきめ細かな一斉指導

支援のキーワード

小学1年生の「書字のベースとなる力」の育成

「手本と同じようにポーズ！」「目と体の協応の力をつける」活動

顔を動かさずに、「目だけで対象物（かっぱ・星のマーク）を見る」活動（眼球運動の向上）

書く活動の前に、書字のつまずきの軽減を図る活動を取り入れました。

1　授業の工夫

- 書くことに苦手さがある子どもの中には、「正しい姿勢の保持」や「動かす力」に弱さがある場合が多くあります。
- 全体指導の「書く」「読む」学習活動の前段として、「見る力」や「動かす力」を高める活動を取り入れてみましょう。
- 「←」の向きを聞いて身体を動かす「聞く矢印体操」等で、左右の認識の向上や集中力の高まりも期待できます。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 運筆する利き手と、紙を押さえる手のバランスがうまく取れていないことがあります。正しい姿勢の保持や鉛筆の持ち方、両手の使い方を確認しましょう。
- 個別課題として、目と手の協応の力を高めるひらがな練習プリント（＊）に取り組むこともできます。

＊ひらがな練習プリント

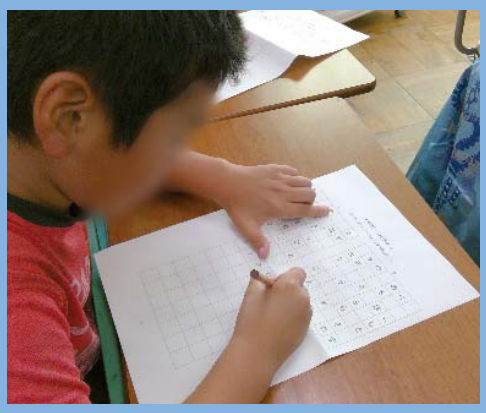
《おすすめ！関連情報！》

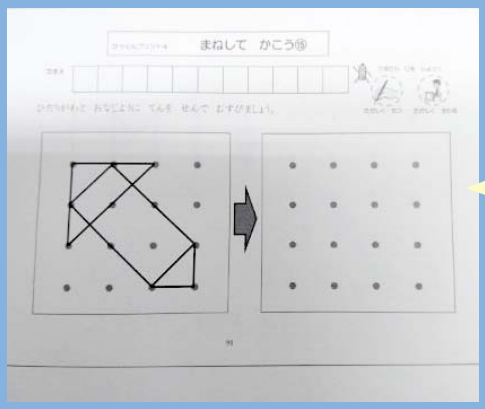
滋賀県総合教育センター　平成28年度研究成果物
「特別支援教育の知恵袋　書字編　平成28年度改訂版」
「かっくんプリント集」･･･文字学習の基礎となる「書字のベースとなる力」を高めるために使えるプリント集です。最終ページには、書字のベースとなる力を育てる「かっくんタイム」の「年間指導のプランの例」も紹介されています。詳細は、滋賀県総合教育センターのホームページへ。

書くことを楽しめる工夫

支援のキーワード

「できる」「楽しい」が「書く意欲」につながる

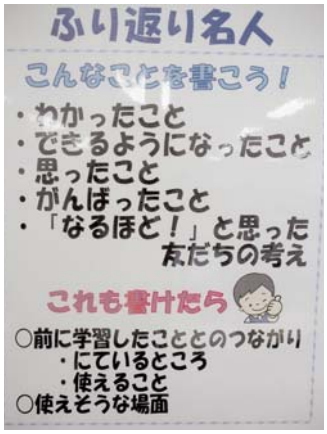




「かっくんプリント」
「形を捉える力」や「空間を把握する力」等をゲーム感覚で楽しく取り組み、「正しく書く力」を高めます。

1　授業の工夫

- 書くことに抵抗がある子どもの中には、「手本通りに書くこと」や、離れた物を見るために「素早く視線を遠近や左右に移動すること」が苦手な場合があります。
- 短時間でできるトレーニングとして「かっくんプリント」や「マスコピー（詳細は参考文献に記載）」があります。左右を見ることや板書を写すことが苦手な子どもの、目の動きの改善をめざすことに有効です。
- 学習のポイントを枠で囲む等、板書の仕方をパターン化することで、子どもたちが視写しやすくなります。
- 書きやすい大きさのマスや書き込みができるプリントを準備し、自分に合ったものを選択し安心して取り組めるようにします。
- 学習のまとめをする時、書くべきことを焦点化するため、振り返りの視点をわかりやすく提示します。（参考：「ふり返り名人」の掲示）



2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 板書を写す際、「囲みの部分だけ書けばいいよ」など、書く量を軽減するようにします。
- 板書を正しく写せるように、お手本シート（教師の板書計画）を個別に渡すことも効果的です。
- 机間指導をこまめにし、つまずきの確認や励ましの声かけをすることで、安心して書く活動に取り組めるようにします。

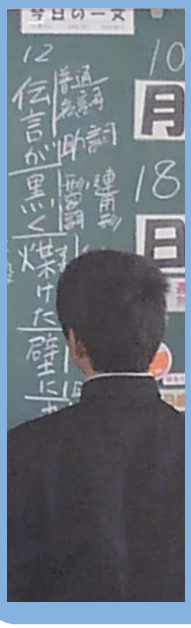
《おすすめ！関連情報！》

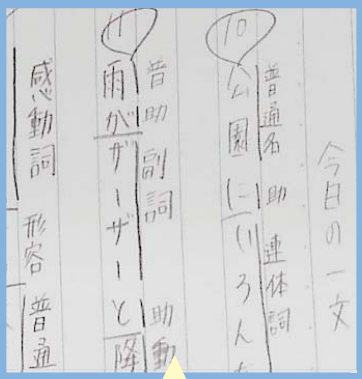
滋賀県総合教育センター　平成28年度研究成果物
「特別支援教育の知恵袋　書字編　平成28年度改訂版」　書字のベースとなる力を育てる「かっくんタイム」、「かっくんプリント」を記載。

書くことの習慣化と添削を活かした次の指導の工夫

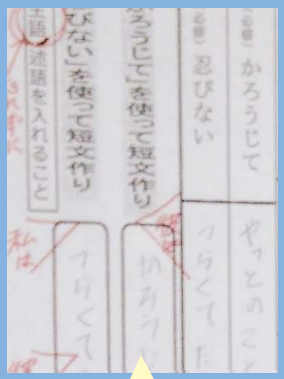
支援のキーワード

「文章を書くことの苦手克服は、一文指導の積み重ねから」

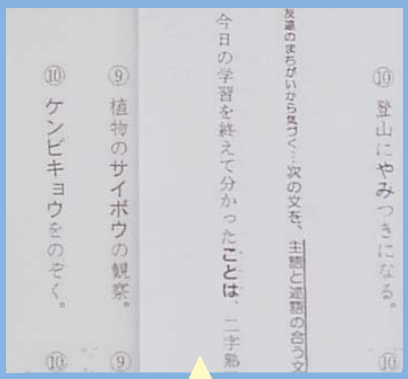




「今日の一文」で、文法事項の習得を通して、文の組立を繰り返し学びます。



語句調べでは、調べた言葉を使い、一文を書かせます。



主語･述語の関係が整っていない文を正す問題を、漢字小テストの欄外に書き加えて、繰り返し学ばせます。

1　授業の工夫

- 短くてよいので、1時間の国語の授業に1回は文を書く時間を設けます。その一つとして、毎時間の授業の「振り返り」を作文にすることも方法の一つです。
- 書くことの抵抗感がなくなり、楽しさを感じられるように、それまでの添削を踏まえて内容や指導を工夫しつつ継続的･計画的に行います。
- 板書する文字の量を少なくし、文字色や字体の大きさを工夫し、見やすくて書きやすい板書を心がけます。

月に1～2回のペースで新聞記事をまとめる活動を国語科の課題とし、書くことの習慣化を図ります。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- ノートを取るのは、それ自体が本来の目的ではなく、学習内容をより理解するための一つの方法ですので、より適した学習方法を個別に考えます。例えば、大切な部分を書くという埋め込み式のプリントを、用意することも有効です。
- 短歌の鑑賞シートを、班単位のグループワークで作成する際に、例えば、得意のイラストのスペースを作るなど、授業の中で活躍の場をつくるのも一工夫です。
- 作文を書くときには、状況に応じて手がかりとなる写真や絵などを用意します。また、毎時間の授業の「振り返り」を書かせる際には、書き方や文例を示します。

P23「つまずきの整理表」と関連 ▶

学年 教科 **中学２年　国語科**　**単元名** **短歌の世界　短歌十首**（三省堂）

４　文章を書くことが苦手な子に対して（P22）

①目標（内容）
- 短歌のリズムや表現方法などの特徴を理解して、作品の内容をとらえることができる。
- 情景や心情を表す語句に注意して、短歌の世界を読み味わうことができる。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 一文が長くなりがちで、主述関係の整わない文を書くことが多い。
- 何をどう書けばいいのか、書き方や書くことがわからず、また、書くことに抵抗感があり時間がかかる。
- 文字が乱雑で、漢字を独特の筆順で書くことがみられる。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−１　授業の工夫（UD化）
- 「今日の一文」指導を行う。
- 班単位で鑑賞シートを作成し発表するという単元のゴールを示す。
- 班単位でのグループワークを取り入れ、協力し助け合える環境を準備する。
- 参考図書を集める。掲載の短歌を明示し、関連ページには付箋を貼り、分かりやすくする。
- １時間ごとに、めあてに応じた振り返りを書かせる。
- 授業のはじめに振り返りや感想を読み上げ紹介し、また、廊下に作品を掲示し手本を示す。

＋

③−２　個への配慮（集団内）
- イメージが持ちやすいように、手がかりとなる写真や絵などを用意する。
- 大切な部分を書くという、埋め込み式のプリントも用意する。
- 班単位でのグループワークを取り入れる際、その役割分担には、文章表現だけでなく、イラストコーナーや調べる役割も入れる。
- ４人グループ分けの際にメンバー構成を考える。
- 板書する文字の量を少なくし、文字色や字体の大きさを工夫し、見やすく書きやすい板書にする。
- 書くことの時間を確保する。
- 毎時間の授業の「振り返り」を書かせる際には書き方や文例を示す。

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）
- ノートを取るのは学習内容をより理解するための方法であり、それ自体が本来の目的ではないので、生徒により適した学習方法を考える。例えば、大切な部分を書くという、埋め込み式のプリントを用意する。
- その生徒にあった参考図書を、あらかじめ用意しておく。
- 巡回指導で適切な支援を行う。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- 手がかりとなる写真や絵を提示することは、イメージが抱きやすく鑑賞文をまとめやすかった。
- 参考図書を集め、関連ページに付箋を貼ることで、スムーズに班学習に取り組めて活動できた。
- 毎時間の振り返りを文章化させることで、書くことの習慣化が図れた。
- 「今日の一文」指導で文法事項の習得を通して文の組み立てを繰り返し学ぶことで、主述関係や修飾被修飾関係等のすっきりとした文を意識させることができた。

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- 対象生徒にあったクイズ形式の参考図書を別に用意しておいたことは、学習意欲の維持に役立った。
- 班単位でのグループワークにすることで、イラストやレイアウトの面で、自分の力や意見を出すことができた。
- プロジェクターの提示と連動した埋め込み式のプリントを使って、学習の整理を行うことができた。

③−３　個に特化した指導（特別な場）
- 放課後等や長期休暇に、教科担任からの個別指導や補充教室を実施。

5

算数が苦手な子に対して

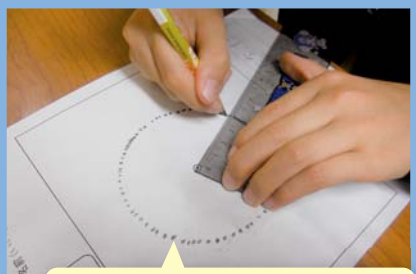
例えば、子どものこんな姿はありませんか。

- 文章題が読めない。
- 数量や単位の理解が難しい。
- 数量関係が読みとれない。
- 計算に時間がかかる。
- 簡単な計算や暗算が難しい。または、時間がかかる。
- 筆算で位取りがずれてしまう。
- 図形を描くことが難しい。
- 三角定規などの用具がうまく扱えない。

体験的活動の導入で実感を伴った学びを

支援のキーワード

ゴールがイメージできる課題設定



円の学習「みんなが公平にできる玉入れの並び方を考えよう」
まず、直線に並んで玉入れをして不公平であることを体験した後、公平な玉入れの並び方について考えました。
学習後、中心から同じ長さのテープを持って並び、「かごから同じ長さになっている」ことについて、実感を伴う確認をしました。

1　授業の工夫

- 算数が苦手な子は、見通しやイメージを持つことが苦手な場合があります。「予想→思考→確かめ」と学習の流れを提示することで、授業の見通しが持てるようにします。
- できるだけ具体物を用意し、操作活動や体験活動を取り入れることで、実感を伴ってイメージしやすくなります。
- 生活に根ざした問題場面の提示により、自分の経験から学習の見通しが持ちやすくなり、意欲的な参加も期待できます。

作図の前に、4mの長さを実感できるように、テープで長さを示す。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 体験活動などにおいて、役割を与えることで、より意欲的に学習に参加できるようになります。
- 発表の際には、ホワイトボードを使用したり、前時の学習の想起において、電子黒板で画像を見せたりする等の視覚支援を工夫すると、集中して取り組むことができます。

本時の学習直後の給食
「円になって食べよう！」

P26「つまずきの整理表」と関連 ▶

学年 教科 **小学３年　算数**　**単元名** **まるい形を調べよう「円と球」（東京書籍）**

5　算数が苦手な子に対して（P25）

①目標（内容）
- 円や球についての観察や構成などの活動を通して、円や球を構成する要素に着目し、円や球について理解することができる。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 一斉指導での指示や説明の理解。
- 学習課題への集中力の持続。
- コンパスを用いて円をかいたり、等しい長さを測り取ったり写したりすること。
- 円の定義の理解。
- 板書の書き写し、自分の考えをまとめ、話したり書いたりすること。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−1　授業の工夫（UD化）
- ゴールがイメージできる課題設定
- 生活に根ざした問題場面の提示
- 「予想→思考→確かめ」と学習の流れを提示
- 電子黒板や発表用ホワイトボードの活用
- 操作活動、体験活動を取り入れた学習

＋

③−2　個への配慮（集団内）
- 机間指導や意図的指名による集中力持続の喚起
- 体験活動における役割の明確化
- 座席の配慮
- 練習問題の分量の軽減

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）
- すべらない定規を使用し、正確に長さを測定した上で作図できるよう指導・支援する。
- 持つ部分が大きなコンパスを使用して円の作図をする。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- 「みんなが公平にできる玉入れの並び方を考えよう」と生活に根ざした問題場面を設定し、学習のゴールがイメージできることで、楽しんで学習に参加することができた。
- 学習の流れを提示することで、学習展開の見通しが持て、作業的な活動にも取り組み続けることができた。
- グループ活動では、ホワイトボードを活用して発表をすることで、話し合いが活発になった。
- 体験活動を導入することにより、実感を伴った理解ができた。

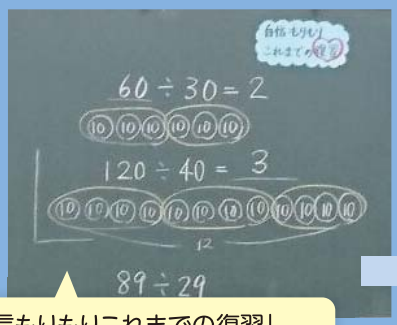
⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- 個別に支援することで、課題に取り組むことができた。
- 体験活動でポイントとなる役割を任せるなど意図的指名をすることで、学習に参加する気持ちが高まった。
- すべらない定規や、持つ部分が大きなコンパスなど、自分に合った描きやすい道具の使用は、作図への取り組みにくさの軽減になった。

③−3　個に特化した指導（特別な場）
- 通級指導の活用…学習に落ち着いて取り組む場として活用する。
  スモールステップで賞賛や励ましの言葉かけを受け、自信や意欲につなげる。

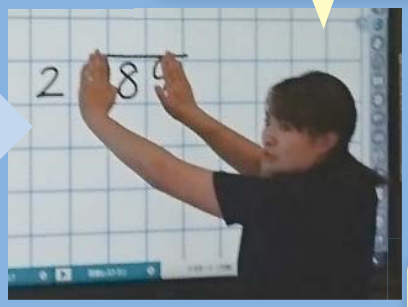
前時の内容を確認しつつ本時の確かな学びへ

支援のキーワード

興味を引くキーワードを活用し、アナログとデジタルを融合した一斉指導
個人差に配慮した学習展開「ミニ先生とグループ学習で学び合う場面を設定」



「自信もりもりこれまでの復習」
前時までの内容を導入段階で確認



電子黒板を活用
学習ポイントの説明（聴覚情報）と情報の可視化を融合

ミニ先生、グループの見守りよろしく！

「算数科：小学４年生　２けたでわる計算」あまりがあるわり算の学習です。
本時の学習課題「もやもやする３けた ÷2 けたの筆算（543÷62）は、どうしたらできる?」において、「さっきやった120÷40と似ている!」「もやもやする３けた ÷2けたも、およその数にして計算したらいいよ。」「およその数って、四捨五入のことやなあ」との子どもたちのつぶやきをヒントに、みんなで商の検討をしました。

1　授業の工夫

- 子どもたちの実態から、「この学習は、丁寧に前時までの振り返りをしながら進めるほうがいい」という時には、スモールステップで様子を確認しながら授業をすすめることが、基礎･基本の確かな理解につながるでしょう。
- 子どもたちのノート指導に関わって、板書のスタイルを一定化することは、「思考し、書き進めながら学ぶ」ために大切です。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 九九の活用に不安で理解が不確かな児童には、九九表を手渡す支援も大切になります。九九カードを数枚準備し、誰でも必要な時に活用できるようにするといいでしょう。
- まとめの問題や家庭学習では、確実に取り組むことを大切に、問題数を少なくすることもいいでしょう。

「よければお守りに使ってね！」
と手渡した九九表です。

学年 教科 **小学４年　算数科**　**単元名** **わり算のしかたを考えよう**（東京書籍）

5　算数が苦手な子に対して

①目標（内容）

- ２～３位数を１位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばすことができる。
- 主な学習内容…・２～３位数÷１位数の計算の仕方および筆算の仕方
　　・倍の計算

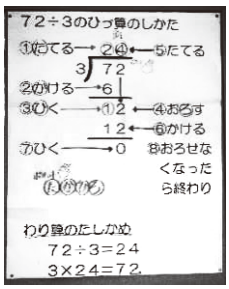
②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）

- 仮商の見つけ方（見当・九九の活用）
- 筆算のアルゴリズムの理解
　（「たてる→かける→ひく→おろす」の操作の手順、位取り、数値を書く位置　など）
- 一斉指導での指示や説明の理解
- 学習課題への集中力の持続

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−1　授業の工夫（UD化）

- 時間の見通しをもって取り組めるよう、学習の流れを提示する。
- マス目のあるプリントやノートの活用。
- 発表用ホワイトボードの活用。
- 筆算のアルゴリズムの掲示。



＋

③−2　個への配慮（集団内）

- 座席の位置の配慮
- 机間指導による集中力持続の喚起。特に学習の中心となり主体的に参加できる部分で、意欲喚起をする。
- こまめに声をかけるようにし、自分の力でやりきったという自信につなげる。
- 計算問題の分量の軽減。
- 具体的に「この部分をしたら終わり」などと伝え、取組のゴールを意識させながらやりきらせ、自信を持たせる。

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）

- 必要に応じて九九表の活用。
- 手元で見られる筆算のアルゴリズムのシートを活用。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）

- かけ算九九が苦手なことが及ぼす影響を少なくするために、九九表を活用したり、筆算のアルゴリズムを掲示したりすることで、どの子も意欲的に課題に取り組むことができた。
- マス目のあるプリントやノートを使用することで、位取りを意識させることができた。
- 発表用ホワイトボードの活用など、視覚支援となるものを多く取り入れることにより、するべきことが明確になり、スムーズに学習を進めることができた。
- 「わかっていること」「求められていること」を明確にするために、問題文にアンダーラインを引く習慣をつけたり、繰り返して尋ねたりする事で、文章題の解き方を学ぶことができた。今後の学習においても大事にしていきたい。

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）

- 教室の机の配置をコの字型にし、指導者が全体を把握することで困っている子どもへの支援が適切にできた。
- 分量の軽減等ゴールを明確にすることで、持続して学習に取り組むことができた。
- 個別に九九表や筆算のアルゴリズムを活用し、手元で確認できることで、学習への苦手意識が軽減された。

③−３　個に特化した指導（特別な場）

- 通級指導の活用…学習に落ち着いて取り組む場として活用する。
　スモールステップで賞賛や励ましの言葉かけを受け、自信や意欲につなげる。

6

自分の考えをまとめることが苦手な子に対して

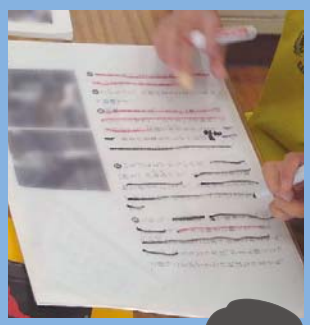
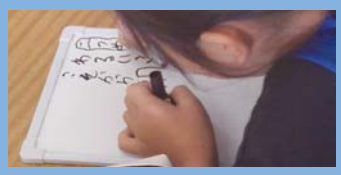
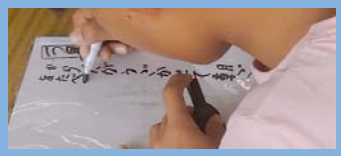
例えば、子どものこんな姿はありませんか。

- 決まったパターンの文章しか書けない、話せない。
- 目的に照らして、計画し、必要に応じて修正することが難しい。
- 早合点や飛躍した考えをする。
- 尋ねられた内容に合わない話をしてしまう。
- 順序立てて、話したり書いたりすることが難しい。

対話を通して思考を深め、自分の考えをまとめていく

支援のキーワード

「授業の中に重層的に『対話』の場を設定する」

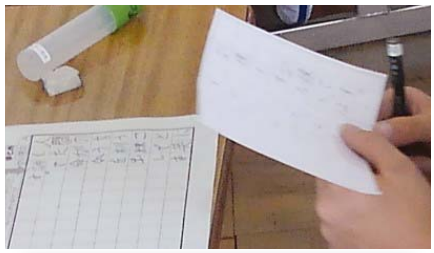




要約を考える授業で、ペアで、「大切な語句」と「省く語句」を相談して考えます。

ホワイトボードに自分の考えをメモし、その後メモをもとに４人で話し合います。

1　授業の工夫

- 自分の考えをまとめるため、また、発表することに自信と意欲を持たせるためにも、「書かせる」という行為を意識的に取り入れます。例えば、気づいたことや疑問に思ったことを、こまめにホワイトボード等にメモを取らせていきます。
- 授業の展開の中に、児童同士で意見を交換し合ったり相談し合ったりする場面を取り入れます。例えば、一人で考えた後に、ペアや少人数で交流できる場を作ります。
- 振り返りの時間を設けて、できるようになったことを確認させ、自信を持たせます。また、新たに考えたことや友達の意見のよかったことを振り返らせます。



要約を考える授業で、まとめることに詰まり、ヒントカードを求めたA児。

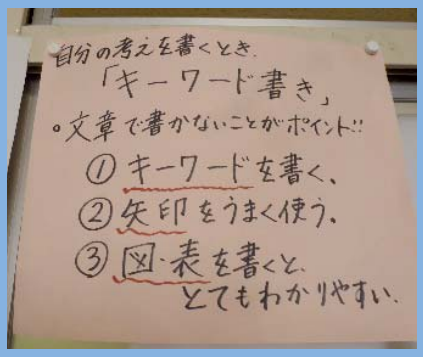
2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 机間指導では、適切な支援を行えるようにします。例えば、「だれが･いつ･どこで･なにを･どのように･なぜ」にあわせて話をまとめさせたり、事前に想定し用意していた「ヒントカード」を渡したりするなど、具体的に手立てを示します。
- 発表の際には、じっくりと話を聞き、話そうとしていることを適当な言葉で言い換えたり補ったりするなど、適切なフォローをします。
- できなかったことよりもできたことをほめ、自信につなげていきます。

「キーワード書き」から確かな理解へ

支援のキーワード

「グループ活動を取り入れ、思考をまとめることに慣れる」



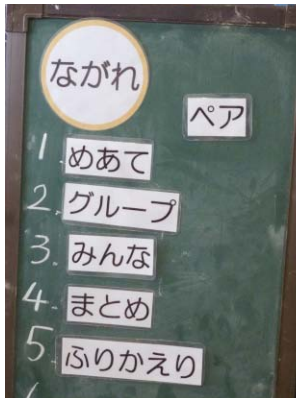
算数科の学習

理科「食物連鎖とは」

授業に「キーワード書き学習」を取り入れます。本時のポイントを絵や図も使いながら学習内容を整理した後、他の意見と比較しさらに思考を深めます。

1　授業の工夫

- 自分の考えをまとめることが苦手な子は、右のスケジュール表のようにグループ活動を取り入れる授業の構成が、学習の確かな理解に役立つこともあります。
- 整理のひな形となる項目（初めに、次に、最後に）を提示するのもいいでしょう。



2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 聞く姿勢を大切にし、話し終わるまで待ち、その内容を確かめてみましょう。
- つぶやきを短冊等のカードに書いて手渡し、思考をまとめるヒントとして活用してみるのもいいでしょう。
- 文字や絵で思い出す手かがり（時間、場所、場面、人など）を示すこともできます。

《おすすめ！関連情報！》

「話のマップ」～物語の内容理解を促す支援として～
長い物語を読むときに、部分的には理解しているものの全体を捉えたりまとめたりすることが苦手な子がいます。話の全体を捉える手立てとして、場面ごとに絵やエピソードを吹き出しで書き表した「話のマップ」を作成し、物語の全体の構成を意識できるようにすることもいいでしょう。

7

気が散りやすい子に対して

例えば、子どものこんな姿はありませんか。

- ケアレスミスをしてしまう。
- 課題や遊びなどで、注意を集中し続けることが難しい。
- 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える。
- 気持ちを集中させて、努力し続けなければならない課題を避ける。
- 気が散りやすい。
- 指示に従えず、最後までやり遂げることが難しい。
- 課題を順序立てて行うことが難しい。
- 学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう。
- 集中が途切れ、日々の活動の内容を忘れてしまうことがある。

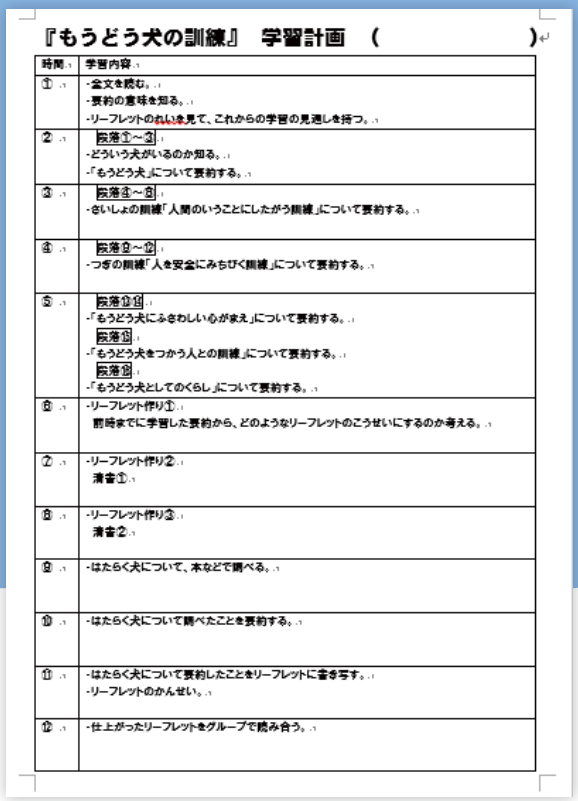
「学習の流れ」の提示で、見てわかる授業

支援のキーワード

支援のキーワード「学習の見通し」を示し、学習に向かう姿勢を作る！

1 時間の学習の流れだけでなく、
1 単元の学習計画も示すと、
よりわかりやすいです。

国語科 3 年　説明文の学習では‥
子どもたちと一緒に学習計画を作成する
ことで、学習意欲が向上しました。



『もうどう犬の訓練』　学習計画　（　　）

時間	学習内容
①	-全文を読む。 -要約の意味を知る。 -リーフレットのれいを見て、これからの学習の見通しを持つ。
②	段落①～③ -どういう犬がいるのか知る。 -「もうどう犬」について要約する。
③	段落④～⑧ -さいしょの訓練「人間のいうことにしたがう訓練」について要約する。
④	段落⑨～⑫ -つぎの訓練「人を安全にみちびく訓練」について要約する。
⑤	段落⑬⑭ -「もうどう犬にふさわしい心がまえ」について要約する。 段落⑮ -「もうどう犬をつかう人との訓練」について要約する。 段落⑯ -「もうどう犬としてのくらし」について要約する。
⑥	-リーフレット作り① 前時までに学習した要約から、どのようなリーフレットのこうせいにするのか考える。
⑦	-リーフレット作り② 清書①
⑧	-リーフレット作り③ 清書②
⑨	-はたらく犬について、本などで調べる。
⑩	-はたらく犬について調べたことを要約する。
⑪	-はたらく犬について要約したことをリーフレットに書き写す。 -リーフレットのかんせい。
⑫	-仕上がったリーフレットをグループで読み合う。

1　授業の工夫

- 落ち着いて授業を受けられない子どもは、集中の持続が難しい場合や聞いてわかる力が弱い場合が多く、自分の行動をコントロールできずに困っています。導入で、本時のめあてやポイント、学習内容、学習の流れ、活動手順などを視覚的に提示することで、授業の流れがわかりやすく、見通しを持って学習に臨めます。
- 聞く活動、書く活動、読む活動等、多様な学習活動を取り入れる、また、1つの学習活動を10～15分ごとに短く区切る等、授業構成の工夫をすることで、集中して学習しやすくなります。
- ペアやグループによる話し合い活動等を取り入れ、学習形態の工夫をすることも集中力の持続に有効です。
- 今学習している内容の板書に矢印マーク（＊）をつけると、注意がそれた後も学習に戻ることができます。

＊学習の流れに
現時点を表示
「今、ココ！」

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

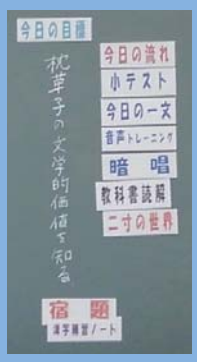
- 話し始める前に、「○○さん」と名前を呼んだり肩に手を触れたりするなど、注意喚起をすることが有効です。その後も個別に励まし、承認することで集中力を高めます。
- ペアやグループでの活動が効果的にできるよう、座席配置に配慮します。
- やり遂げられる量の課題を提示すると、取り組みやすく、自信と次へのやる気につながります。

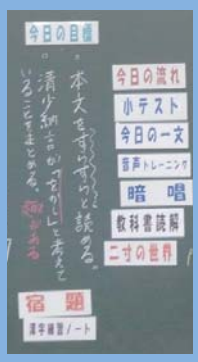
P5「つまずきの整理表」と関連 ▶

見える化とＩＣＴ機器の活用で、分かる・楽しい授業を創る

支援のキーワード

「律動感のある授業の流れとその定型化で、集中力持続！」





１時間の流れを定型化し、見通しが持てるように「見える化」を。

ＩＣＴ機器の活用で、テンポ良く、また、言葉だけでは補えないビジュアルの効果を駆使することで、視線をこちらへ集中させることができます。同時に、視覚的に楽しくて分かる授業を目指します。

1　授業の工夫

- 授業の始めには、本時のめあてを示すだけでなく、前時の学習を必ず振り返ること学習の関連性を押さえ、学習意欲の持続を図ります。
- 1時間の授業の流れを、ある程度定型化し、それを視覚的に示すことで、見通しを持てるようにします。そして、指示は、目と耳の両方で伝えることを心がけます。
- 電子黒板やプロジェクターなどのＩＣＴ機器の活用で、テンポがあり切り返しの早い授業の流れをつくり、集中力の持続を図ります。
- 生徒の手本となるように、丁寧で聞き取りやすく、表現（音声、表情、身振り、動作等）が豊かな、人を引きつける話し方を心がけます。

＊調べ学習では、司書支援員の協力を得て、事前に関連図書をまとめ、その図書には付箋を貼っておきます。
また、支援が必要な生徒には、その生徒に合うような図書を別に用意しておきます。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 人間関係を踏まえた座席を考慮し、授業の中に、生徒同士が相談したり話し合ったりする場面を積極的に取り入れ、集中できるように周囲の助力を意図します。
- 机間指導の際に言葉かけをたびたび行い、例えば「～するの？」という声が出たらよしとするなど、今、取り組む課題をこまめに確認します。

P35「つまずきの整理表」と関連 ▶

学年 教科 **中学２年　国語科**　**単元名** 説明 **「人間は他の星に住むことができるのか」**（三省堂）

7　気が散りやすい子に対して（P36）

①目標（内容）
- 文章の全体と部分との関係に着目して読み、内容を理解することができる。
- 文章の構成について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 周囲のことが気になり、また、手なぐさみも多く、課題にしっかりと向き合うことができにくい。
- 次々と興味が変わり、また反面、ぼんやりとしていることもあり、教師の話がよく聞けていない。
- 取りかかりがどうしても遅くなり、他の生徒よりワンテンポ遅れていることが多い。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−1　授業の工夫（UD化）
- 電子黒板やプロジェクターを活用し、視覚的な支援を行う。
- １時間の授業の流れを一定にし、見通しが持てるようにするとともに、律動感のある展開を工夫する。
- 板書（電子黒板）や提示教材を、ワークシートと連動させる。
- 授業のはじめに、前時の学習を取り込むことで、再理解や習得の継続と深まりを図る。

＋

③−2　個への配慮（集団内）
- ＩＣＴの活用で、テンポがあり切り返しの早い授業の流れをつくり、集中力の持続を図る。
- 丁寧で聞き取りやすく、表現が豊か（音声、表情、身振り、動作等）な話し方を心がける。
- 相談したり話し合ったりする場面を、積極的に取り入れる。

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）
- 人間関係を踏まえた座席を考慮し、授業の中で相談できたり話し合えるようにする。
- 集中できるように周囲の友だちの助力を意図する。
- 机間指導の際に言葉かけをたびたび行い、例えば「〜するの？」という声が出たらよしとするなど、今、取り組む課題をこまめに確認する。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- 授業の始めに、本時のめあてと前時の学習を振り返ることで、学習のつながりや展開が明確になった。
- １時間の授業の流れを定型化し視覚的に示すことで、学習の見通しを持つことができた。
- プロジェクターを活用することで、テンポがあり切り返しの早い授業展開が生まれ、集中が持続できた。
- プロジェクター等を使った視覚情報とそれにリンクしたワークプリントを使うことで、学習の要点が明確になった。

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- プロジェクターの視覚情報に興味を持ち、しっかりと視聴できていた。
- 人間関係を踏まえた座席を考慮することで、教師だけでなく友だちの助力も得て、学習に前向きに取り組めた。また、机間指導の際に言葉かけをこまめに行うことで、今取り組むべき課題を意識でき、課題に取り組むことができた。

③−3　個に特化した指導（特別な場）
- 放課後等や長期休暇に、教科担任からの個別指導や補充教室を実施。

8

落ち着きのない子に対して

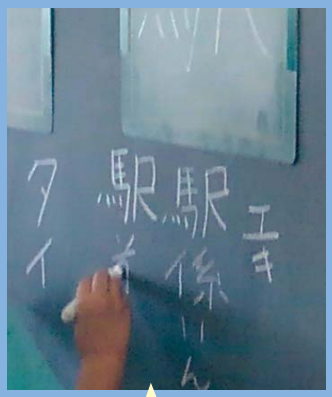
例えば、子どものこんな姿はありませんか。

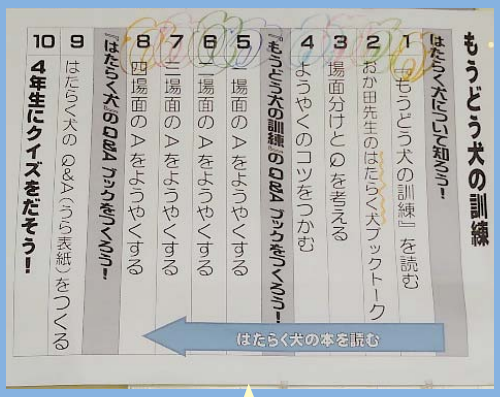
- 手足をそわそわ動かしたり、着席していてももじもじとしたりする。
- 授業中など不用意に離席してしまう。
- きちんとしていなければならないときに、過度に走り回ったり、よじ登ったりする。
- 遊びなどにおとなしく参加することが難しい。
- じっとしていない。何かに駆り立てられたように活動する。
- 過度に話す。

褒めることを大切に、活動と活躍の場を工夫する

支援のキーワード

「『君が先生！』など、活躍できる場面づくりを考える」





教卓の前で「漢字先生」としてのA児の表情は晴れやかで、大きな声で堂々と説明できていました。

単元の計画とゴールを教室に掲示し、学習の見通しを持たせます。

3年　国語科「もうどう犬の訓練」の学習場面より

1　授業の工夫

- 授業は、活動する場面を多く取り入れ、テンポが良く変化に富む展開となるように工夫します。例えば、「漢字先生」として先生役を務めさせるなど、児童が活躍できる場を工夫します。
- 単元の進め方やそのゴールを教室に掲示して、先の見通しが持てるように明示することも大切です。
- 好ましくない行動の代わりとなる適切な行動（どうすればよいか）を、その都度指摘し、分かりやすく説明します。
- 「大切なことを今から言います」のように、前置きを入れて学習の構えを意識づけします。指示は一度に一つを心がけ、また、必要に応じて復唱させます。

できていないことへの注意ではなく、できている児童に対してプラスの言葉かけをしていきましょう。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 取りかかりがどうしても遅れがちになるので、目配りできるように手のかけやすい座席の配置を考えます。また、全体での指示では困難が予想されるので、活動の前に個別に指示を伝えます。
- できていないことへの注意よりも、できている場面を逃さずにプラスの言葉かけを行うよう心がけます。
- 定期的に机の中を点検し整理させて、ワークプリントの紛失がないように学習環境を整えます。

P38「つまずきの整理表」と関連 ▶

学年 教科 **小学３年　国語科**　**単元名** **はたらく犬について調べよう「もうどう犬の訓練」（説明文）（東京書籍）**

8　落ち着きのない子に対して（P37）

①目標（内容）
- 大事な言葉や文を見つけ、書かれていることを要約する。
- 単元のゴールまで意欲を継続し、言葉を補ったり書き換えたりしながら、内容を要約する。

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）
- 手なぐさみが多く、教師の話をよく聞かず友だちのことが気になり、課題への取りかかりが遅くなってしまう。
- 思いついたことをすぐ声に出し、次々と興味が変わりやすく授業に集中することが難しい。
- 早合点や飛躍した考えをし、思いが連想していき、一つのことをじっくりと考えることが苦手である。
- 整理整頓が苦手で、学習プリントを紛失することが多い。

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−１　授業の工夫（UD化）
- 授業は、児童が活動する場面を多く取り入れ、テンポが良く変化に富む展開となるように工夫する。
- 教科書、ノート等を準備するタイミングを明示する。
- 望ましい言動に肯定と賞賛の言葉をかけ、何が良かったのかを全員の前で伝える。
- 教師の話し方は、丁寧で聞き取りやすく、表現が豊かで、温かい雰囲気であることを心がける。
- ４年生に向けてのQ＆Aという単元のゴールを明確に示し、意欲の継続が図れるようにする。

＋

③−２　個への配慮（集団内）
- 一度に一つの指示を心がけ、同時に指示を具体的にするとともに、必要に応じて復唱させる。
- 「漢字先生」など、児童が活躍できる場を設定する。
- わからないときには、援助や助言を求められるようにする。
- 集中力を高めることのできる座席や人間関係を踏まえた座席を考慮する。
- 机間指導での適切な言葉かけ支援を行う。
- 意図的指名による発表の機会の設定を行う。
- できないことよりも、できていることへのプラスの評価を行う。

＋

③−３　個に特化した指導（集団内）
- 取りかかりがどうしても遅れがちになるので、目配りできるように目の届きやすい座席の配置を考える。
- 全体での指示では困難が予想されるので、活動の前に個別に指示を伝える。
- できていないことへの注意よりも、できている場面を逃さずにプラスの言葉かけを心がける。
- 定期的に机の中を点検し整理させて、ワークプリントの紛失がないように学習環境を整える。

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）
- 上学年である４年生に向けてのQ＆Aという単元のゴールを設定することで、具体的なイメージが持て、また、意欲の喚起にもなった。
- 単元の進め方やそのゴールを教室に掲示することで、学習の流れと先の見通しを持つことができた。
- 一度に一つの指示を心がけ、必要に応じて復唱させることで、活動的な場面でも課題が明確なり、より意識的な行動を取ることができた。

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）
- 全体での指示や活動の前に個別に言葉かけをすることで、遅れることなく課題に取り組むことができた。
- 「漢字先生」の役割になった時には、みんなの前で意欲的に音訓や筆順を説明できた。
- 学習に使うワークプリント等が手元にあるかどうかの確認をこまめに行うことで、今何をすべきかがわかり、学習に遅れずに取り組めた。

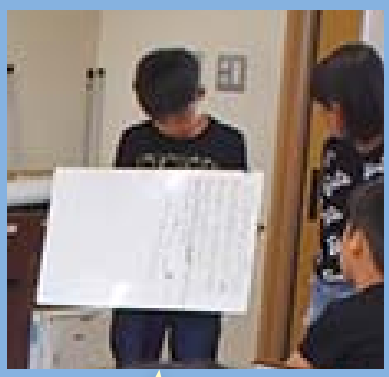
③−３　個に特化した指導（特別な場）
- 通級指導教室における指導。
- 休み時間や放課後を活用した、学級担任からの個別指導。

場面切り替えの工夫で集中力アップ

支援のキーワード

多様でメリハリのある授業展開

グループで相談して、ホワイトボードにまとめます。



どう？この説明でわかるかな？

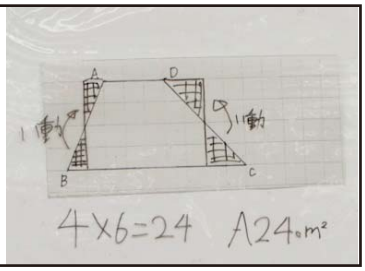
グループ活動で、書いたり発表したりする役を担当することで、集中して学習できます。

1　授業の工夫

- 1時間の学習の流れを提示し、「ここまでやったら○○」「この部分をしたら終わり」など、スモールステップで学習を進めます。
- グループ活動を取り入れ、グループ発表の際に発表用ホワイトボードを活用して、役割分担（書く、発表する等）をすると活動に参加しやすくなります。

発表用ホワイトボードの活用

- グループで相談したり説明したりする際に有効です。ホワイトボードの上に透明のビニルシートを付けると、ホワイトボードとビニルシートの間にプリントが挟め、図に説明を書き加えることや書き直しすることができ、学習に取り組みやすくなります。



2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 教室の机の配置はコの字型にすると、授業者が個別の指導や支援がしやすくなり、特別な支援が必要な児童にとっても有効です。学習内容に応じて、取り入れていくとよいでしょう。
- 計算問題等、課題の分量を個に応じて軽減することで、集中力の持続につながります。

《おすすめ！関連情報！》

滋賀県総合教育センター　平成25年度研究成果物
「特別支援教育の知恵袋　実技編」P22「落ち着きのない子ども」　実技等を伴う学習における支援についての情報があります。

姿勢よく着席する

支援のキーワード

「姿勢を正す」

教室には、見えるところに「よい姿勢」を促す掲示物をします。授業前、授業中に合い言葉（「ぴたっ」「しゃきっ」「ぐー」など、生活年齢に合ったことば）で、姿勢よく座れる意識付けをします。
※「よい姿勢」とは、背筋を伸ばすこと。

※「ぴたっ」　：両足を床につけ、膝と膝を合わせます。
「しゃきっ」：背筋を伸ばします。
「ぐー」　　：片手でグーをした一つ分、机とおなかを空けます。

1　授業の工夫

- 姿勢よく座れなかったり、姿勢よくしてもすぐに崩れてしまったりする子どもには、掲示物等で意識付けをします。
- 授業中も、合い言葉で姿勢よく座ることを促します。
- 聞く姿勢にばかり注意させると、姿勢保持に精一杯になり、話を聞くことができない場合があります。また、「ノートに書きながら聞く」など複数の活動は避け、話を聞くことにだけ集中できるようにします。

お助け教材・教具

- イスの座面にすべり止め。
- 足を載せる台を置く。
- 一本足イスでバランスの力を育てる。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 着席すると、すぐに足を前に突き出すような姿勢をしたり、足をがたがた動かしたりしてしまう子どもには、足で踏みつける棒を置くことによって、自然とその棒を踏みつけるようになり、座る姿勢がよくなります。
- 着席姿勢を維持できない子どもには、座面にすべり止めをおいたり、姿勢が安定するようなクッションや肘掛け椅子を使用したりするなど、個に応じた、安定して座れる配慮をします。

《おすすめ！関連情報！》

滋賀県総合教育センター　平成25年度研究成果物「特別支援教育の知恵袋」P 9、
平成26年度研究成果物「身体面の課題チェックシート活用の手引き」P 12～15

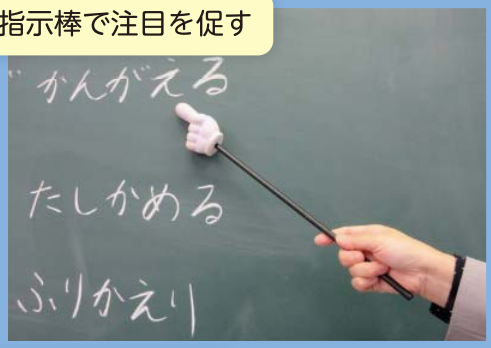
見て分かる授業

支援のキーワード

支援のキーワード「視覚化：見て分かる支援」

何をするか分かる

指示棒で注目を促す



注目させたいところをかくす

見て時間が分かる

1　授業の工夫

- 伝えたいことを目立たせて、あえて大きくしたり、目に入りやすくしたりして提示しましょう。
- 思いついたら話し出してしまう衝動性の強い子どもや状況の読み取りが苦手な子どもにとって、視覚的に示すことで、「話を聞こうとする」「注目する」などの行動へコントロールするきっかけになります。
- 板書の仕方や工夫は、どの先生も、毎時間使用するようにします。いつでも、同じように板書の中で大切なことを示すと、子どもの視線がより黒板に集中します。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 棚に置いている本や学習道具などは、注意が散漫になるなら、全て片付けたり、動かせない物はカーテンで隠したりしましょう。
- わずかでも音の出る電化製品（デッキ、プロジェクター、蛍光灯）などでも、注意が逸れる子もいます。そのような場合は、原因を探ると共に、分かればそれらの物を片付ける工夫をしましょう。
- 「本人が落ち着いて授業に集中できる環境とは何か」ということを念頭において、配慮しましょう。

《 おすすめ！関連情報！》

滋賀県総合教育センター　平成24年度研究成果物
「特別支援教育の知恵袋」P 27.28

9

衝動的な言動が目立つ子に対して

例えば、子どものこんな姿はありませんか。

- 質問が終わらないうちに、出し抜けに答えてしまう。
- 他の人がしていることを、遮ったり邪魔をしたりしてしまう。
- 順番を待つことが難しい。

わかりやすい目標を作って学習に取り組む

支援のキーワード

支援のキーワード：明確な「目標」や「めあて」は学習ルール作りに

Aさんの課題段階表（学校）

	登校時	給食前～給食後	下校時
第１段階	登校して横になって寝ずに椅子に座る。	１２：２０になったら先生と一緒に自分でトレーを持って、ランチルームにいく。	次の日の予定を連絡帳に書く。
第２段階	連絡帳と宿題プリントを先生に渡す。	ランチルームの手洗い場で手を洗って、トレーを洗ってから配膳テーブルにトレーを持って行く。	宿題プリントを４枚（金曜日は６枚）自分で連絡帳のファイルに入れる。
第３段階	鞄から給食袋、水筒、タオルをかごに出す。	自分のトレーに、選ばずに主食、おかず、牛乳、汁物などをのせる。	帰りの会の前までに鞄の中に給食袋、連絡帳、筆箱、水筒、タオルなどの持ち物を自分で入れ帰りの用意をする。
第４段階	朝の健康観察で、今朝の自分の体調を先生に伝える。	おかわりが欲しいときは、先生に「おかわりください」と伝え、おかわりを入れてもらう。	先生に「帰りの用意が出来ました」と報告する。
第５段階	自分で筆箱と鉛筆を机の上に置き、朝の学習の準備をする。	自分の給食袋を机の上に準備して、「いただきます」をして食べる。	１４：２０に着席し、帰りの会ができる。
第６段階	先生に朝の学習プリントをもらって朝の学習を一人でする。	１２：５０までにランチルームに給食の後片付けに行く。	先生に聞かれて１日でがんばったことを報告する。

目標はスモールステップで、段階を決め、目指す姿に向けて本人にもわかりやすく示しましょう。

模造紙のシール表。全部達成すると750枚ものシールが貼れて、ゴール！できた充実感が味わえます。

スペシャルポイント　一覧

ポイントが獲得できること	ポイント数
グランド整備に頑張った	20
窓ふきを頑張った	20
朝学習で宿題直しと	

スペシャルポイントを作って、モチベーションアップ。

1　授業の工夫

- 事前に授業を受けるときの基本的な態度や発表の仕方などを、クラス全体の「ルール」として設定しておきます。支援の必要な子には、ルールを守るために、スモールステップで「目標」や「めあて」を決めておきます。
- どの授業でも、授業を受けるときの基本ルールは統一しましょう。
- 授業の「目標」や「めあて」は、子どもが見やすいところに明確に掲示します。
- クラスみんなが達成できたら、「学級活動で○○できる」などのお楽しみを用意すると、さらに意欲が高まります。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 授業中、気持ちが逸れて離席をしてしまったり、不意に発言したりするなど、集団の学習に支障を来すような行動をとってしまう場合は、そのことだけに注目して「授業の途中で席を立たない」や「勝手に発言しない」といった注意を繰り返すと、本人の苦手さや苦痛を助長してしまうことがあります。
- 学級の「目標」や「めあて」を達成できるための、その子に応じた「目標」や「めあて」を設定しましょう。
- 「目標」や「めあて」は、本人が「できる」「できるようになりたい」という気持ちが持てるものにし、そのためのスモールステップを決めましょう。できていないことばかりではなく、できることも「めあて」に含めましょう。

落ち着く環境

支援のキーワード

「整理：不要な刺激をなくす」

カーテンで
すっきり

学習に必要のない物はカーテンの中に片付けます。要らない物が見えないので学習に集中できます。

黒板まわりや棚の上は刺激がないように整理

1　授業の工夫

- 棚に置かれている教材や本など、どうしても動かせないものは、カーテンや目隠し用の布を使って隠しましょう。
- 刺激的な模様などはなくし、統一感のある色使いなどで教室全体の雰囲気を落ちついたものにしましょう。
- 教室の掲示物の色を壁の色に統一することも効果があります。掲示物がゆがんでいたり曲がっていたり、剥がれていたりすることも刺激になるので、避けましょう。

2　授業での個への配慮・個に特化した指導

- 授業中、集中したいのに、まわりの様子が気になったり、気が散ったりする場合は、教室の隅に個別のスペースを用意しておくこともいいでしょう。
- ノートに書いたり本を読んだりするときなどにちょっとした刺激調整が必要な場合は、机の上に置ける仕切り板を使用することも効果的です。

《 おすすめ！関連情報！》

滋賀県総合教育センター
平成25年度研究成果物「特別支援教育の知恵袋　実技編」P 15

つまずきの整理表（様式）

学年 教科　　単元名

①目標（内容）

②想定されるつまずきやすいポイント（つまずきが心配される児童生徒の様子から想定）

③−2・3の内容は、個別の指導計画へ反映

③−1　授業の工夫（UD化）

＋

③−2　個への配慮（集団内）

＋

③−3　個に特化した指導（集団内）

④集団への授業の評価（授業後、①に対して）

⑤個への指導の評価（授業後、②に関連）

③−3　個に特化した指導（特別な場）

参考文献

▶滋賀県教育委員会
「めくばり　てくばり　こころくばり　ＬＤ、ＡＤＨＤ、高機能自閉症支援ガイドブック」（改訂版）
平成22年（2010年）

▶滋賀県総合教育センター
特別支援教育に関する研究「特別支援教育の知恵袋」
平成24年度（2012年度）研究成果物

▶滋賀県総合教育センター
特別支援教育に関する研究Ⅱ「自己肯定感を育てる特別支援教育」
平成25年度（2013年度）研究成果物

▶滋賀県総合教育センター
特別支援教育に関する研究「特別支援教育の知恵袋（実技編）」
平成25年度（2013年度）研究成果物

▶滋賀県総合教育センター
特別支援教育に関する研究「身体面の課題チェックシート活用の手引き」
平成26年度（2014年度）研究成果物

▶滋賀県総合教育センター
特別支援教育に関する研究「特別支援教育の知恵袋（書字編）平成28年度改訂版」
平成28年度（2016年度）研究成果物

▶田中裕一
特別支援教育研究２月号「全ての子供が分かる授業」と「合理的配慮の提供」
東洋館出版社、平成29年（2017年）

▶田中裕一監修
「小・中学校でできる『合理的配慮』のための授業アイデア集」
東洋館出版社、平成29年（2017年）10月

▶笹森洋樹編著
「イラストでわかる特別支援教育サポート事典「子どもの困った」に対応する99の実例」
合同出版、平成27年（2015年）３月

▶内山登紀夫監修　川上康則編
「通常学級でできる発達障害のある子の学習支援」
ミネルヴァ書房、平成27年（2015年）４月

▶志水　廣／長野県岡谷市立岡谷小学校編著
「算数科　学ぶ喜びを育む学習の創造―志水メソッドとの出会い―」
明治図書出版、平成20年（2008年）３月

▶大阪医科大学ＬＤセンター　アットスクール　教育研究部共同開発
「トレーニングBOOK　マスコピー」
株式会社スプリングス、平成22年（2010年）１月

子どもたちの「わかった」「できた」を増やそう！
特別支援教育の視点を生かした
授業づくりヒント集

平成31年（2019年）３月：初版発行

滋賀県教育委員会事務局特別支援教育課
滋賀県大津市京町四丁目１－１
TEL：077-528-4641
FAX：077-528-4957
E-mail：tokushi@pref.shiga.lg.jp

本ヒント集は、文部科学省委託事業「発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業」（平成29～30年度）」の一環として作成したものです。